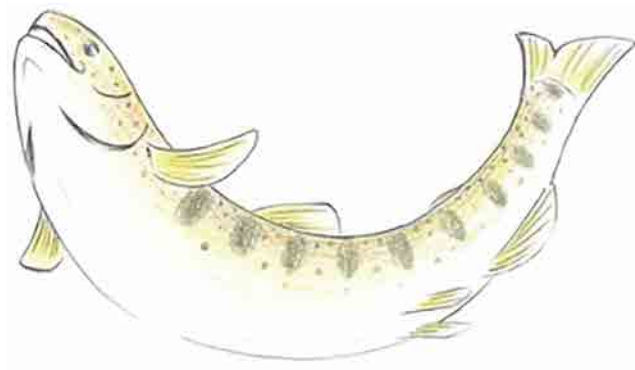


令和3年度

サクラマス・プロジェクト

キャリア教育 報告集



「アントレプレナーシップ教育」



島根県立吉賀高等学校

巻 頭 言

島根県立吉賀高等学校

校長 小林 三 高

吉賀高校のキャリア教育は、平成23年度の高校魅力化事業開始以来「総合的な探究の時間」を中心に、1～3年次の連続性を持たせ3年間で「アントレプレナーシップ教育」に取り組んできています。

「アントレプレナーシップ教育」は1～3年の3カ年にわたる「総合的な探究の時間」の柱となるよう、1年次「アントレⅠ（課題発見期）」、2年次「アントレⅡ（課題解決期）」、3年次「アントレⅢ（課題発展期）」という流れで計画し進めております。また今年度7月には「3年生アントレプレナーシップ教育最終発表会」を開催しました。3年生は1～3年1学期までの取組を総括し、自分自身の成長を自分の言葉で語ってくれました。今年度は昨年度以上に探究色を強めた本格的な学習として「アントレプレナーシップ教育」を推進しています。

今年度の「アントレプレナーシップ教育成果発表会（1・2年生）」は六日市体育館を会場に実施し、地域の方や東京の大学生及び大学の先生に参加していただく予定でしたが、島根県がまん延防止等重点措置の対象になったことから、急遽会場を吉賀高校に変更し、発表はオンラインで行うこととしました。そのような状況の中ではありましたが、生徒たちは慌てることなく、堂々と発表してくれました。ご参加いただいた皆様からは、発表内容や態度もよりレベルアップをしているという概ね高評価をいただきました。このことは生徒にとって「大きな学び」であり「自信」に繋がるものであります。また、このことを糧として、今後いろいろなことに「チャレンジ」してほしいと願っております。

また成果発表会の翌日には、吉賀町教育委員会主催の「サクラマスプロジェクトフォーラム2022」がオンラインで行われました。本校の卒業生が現況報告と今後のビジョンについて語ってくれました。これから社会人として自立しようとしている皆さんの強い決意を聴くことができ、とても頼もしく感じました。本校のキャリア教育が、吉賀町サクラマスプロジェクトの一角として、吉賀町の社会教育にも効果的な役割を果たしているとしたら大変うれしく思います。

本冊子は、「アントレプレナーシップ教育成果発表会」で発表した内容の報告集です。生徒たちが1年間探究してきた地域課題とその解決策等をまとめたものです。今年は全員が紙芝居形式で自分の努力や成長を語り発信してくれました。それによって生徒個々の中にまた一つ「学び」が蓄積されたと感じています。これからも探究活動の成果がより具体的で実現可能な内容になるよう深めていってほしいと願っています。

最後になりますが、連携をいただいている青山学院大学、大正大学、法政大学、日本女子大学の諸先生方、そして日頃からご指導いただいております地域の皆様に心より感謝申し上げます。巻頭のご挨拶といたします。

吉賀高校のアントレプレナーシップ教育（アントレ）とは

吉賀高校では総合的な探究の時間を「アントレプレナーシップ教育（通称アントレ）」と称しプロジェクト型探究学習を行っています。アントレプレナーシップとは「起業家精神」を意味しますが、この変化の大きい不確かな時代に、仕事が無いなら自ら創るマインドとスキルを身につけるための授業と位置づけ、「未来を創る力」を育成する探究学習を展開しています。この授業の中で、自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そして地域社会における需要（Need）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、地域をフィールドとして実践に移し、探究のサイクルを回していきます。



今年度は、東京研修を1・2学年合同で実施する計画でしたので、アントレも2学年混合のグループを編成し、プロジェクトを考えていきました。学年の壁を越えて協働するのは大変な面もありましたが、意見を出し合い、各個人の強みを活かして協力しながらプロジェクトを進めることができました。

また、本校では、青山学院大学・法政大学との高大協働研究を行っており、大学生と交流しながら探究学習を深めています。本来であれば、夏には大学生が吉賀町を訪問し、秋には高校生が東京を訪問し、それぞれの地でフィールドワークを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、残念ながら今年度も直接の交流は叶いませんでした。しかし、オンラインを活用して大学生と高校生は継続的に交流し、東京研修に代わるフィールドワークもオンライン上で一緒に経験することが出来ました。この高大協働研究で大学生と交流することにより、探究のサイクルのいろんな場面で、多様な視点からの意見やアドバイスをもらったり、壁打ちしてもらったりと、沢山の学びを得ることができました。



そして何より、本校のアントレは地域の方々の協力があってこそ成り立っています。どのプロジェクトも、地域の現状を聞き取り、プロジェクトを考え、様々な方にご協力いただきながら実践に移しています。地域のリアルに触れ、机上の空論ではなく地に足の着いた学びを展開できているのは、暖かく見守っていただき、高校生に機会と場を提供いただいている地域の皆様のおかげです。



本来であれば、12月の中間発表会、2月の成果発表会には、このようにお世話になった方々をお招きし、直接高校生の発表を聞いていただきたかったのですが、やむを得ずオンラインでの開催とさせていただきました。コロナ禍で様々な制限はありますが、今後も可能な形で発表の場を設けていきたいと思ひます。

今年度の高校生たちのプロジェクトの内容、アントレを通じての学びや成長をまとめたスライドをこの報告集には掲載しております。吉高のアントレの発展のため、これからもご助言・ご協力をお願いいたします。



< R 3 活動予定 >

月	主な内容
4月	オリエンテーション
6月	地域座談会
7月	3年最終発表会 (個人発表：対面) 1・2年グループ紹介動画作成
8月	高大協働研究・夏 (大学生が吉賀町訪問)
9月	町内フィールドワーク
10月	東京研修 (東京フィールドワーク)
12月	中間発表会 (グループプレゼン：対面)
2月	成果発表会 (グループ・個人発表：対面)



< R 3 活動実績 >

月	主な内容
4月	オリエンテーション
6月	地域座談会
7月	3年最終発表会 (個人発表：対面) 1・2年グループ紹介動画作成
8月	高大協働研究・夏【中止】
9月	町内フィールドワーク 大学生とオンライン交流開始
10月	東京研修【中止】 大学生交流（オンライン）
11月	町内フィールドワーク 大学生交流（オンライン）
12月	オンラインフィールドワーク (大学生と共に オンラインインタビュー) 中間発表会（グループプレゼン ：【オンライン】)
2月	成果発表会 【個人発表：オンライン】

3年生 アントレ最終発表会の振り返り（抜粋）

【地域に出て、地域の人や大学生と学ぶことの意義】



- ・同じ地域や世代だけでは考えもしない発想や価値観を知ることができるので、視野が広がります。そして、視野が広がると物事に対して様々な角度から見たり、考えたりすることができ、普段の生活が前よりも楽しくなると思います。
- ・実際に地域に出て話を聞くことで、身近なところでどんな社会問題が起こっているのか、自分の地域の課題が何なのかを知ることができました。吉賀町に住む外国人の困りごとを知ることができ、地域に出て小規模なプロジェクトをすることで色々なノウハウを身につけることができました。
- ・大学生や地域の人からは、経験を積んでいる分、異なる視点から厳しい意見をもらえました。自分たちがニーズを全く考えていなかったことを指摘されたり、何を本当に地域の人たちが必要としているかを知らされたりもしました。自分の思い込みだけでやってないか、考えるきっかけとなりました。
- ・アントレでアスレチックを作るとき、最初は地域の人に頼ってばかりでした。それで一度怒られたけど、そこから自分でやれるところはやって、困ったときに頼るようにしたら、快く相手をしていただけたことが印象に残っています。
- ・音楽の素晴らしさに気づき、笑顔の大切さを改めて感じました。機材の準備やコンサートの実施は先生や社会福祉協議会の方の支えがあったからこそできました。コンサートの後、地域の方から声を掛けられたりすることも増えました。沢山の人と関わり、コミュニケーションをとることの大切さを学びました。
- ・地域の人や大学生と出会い、色々な価値観の人たちと触れ合いました。物事に対して色々な受け取り方ができるので、相手に不快な気持ちを与えないように言葉を選んで話さないといけないと感じました。また、大学生からは、話し方のコツやアドバイスをもらったので、これからは活かしていきたいです。
- ・地域の方々自分よりも経験値が高いので、現実的なアドバイスをもらえます。そして、地域や社会の、辛い面も甘い面も知ることができます。プロジェクトを地域で実行することで、当事者意識をもって取り組むことができ、「大人レベル」で活動できるので、飛躍的に自分を高められました。
- ・地域に出て実物に触れたり、地域の人のお話を聞いたりして、新しい発見や新しいアイデアを得ることができました。経験豊富な人から話を聞き、昔と今の違いなどを知ることで、課題発見に大いに役立てられました。



【アントレで学んだことや身につけた力を進路に活かしていく】

- ・一つのアクションの後に反省をし、次のアクションでどういう所に気を付けたら上手く繋げていけるのかを考えた。そのPDCAを上手く回せるように意識したり、アントレ以外でも試したりしたので、将来はこのことを活かして、大学や仕事の中で少しずつでも多くの人を助けられるようになりたいです。
- ・1年次のアントレも、2年次のアントレも絶対に一人では確実にできませんでした。みんなで考えて意見を交換することによってより良いものができたので、協働する力を身につけられたと思います。また、たくさん失敗したけれどそれをどう活かして次につなげるかを考えることが大切だと思ようになりました。
- ・3年間のアントレを通して、どのように行動し何をいつまでに終わらせるかという計画力や、考えていたことがダメになった時に、次はどうすればいいかと試行錯誤し、挑戦する力が身に付きました。これからも、たとえ結果が出なくても、挑戦することを大事にしていきたいです。
- ・アントレで身に付いたことで最も大きいのは行動力です。自分で計画を立てて、必要に応じて自分でアクションを起こすというのは他の授業では学ぶことがあまりできないため、いい経験ができたと思います。また、自分が想像していたことと違うことが起きた時に、何が原因だったかを考え、次にどう行動すればよいかを考える、失敗から学ぶ力も身につけたと思います。
- ・メンバーとの団結力、地域や周りの人と協力して何かを考えるためのコミュニケーション力、みんなで発案したアイデアを実現させるための行動力や、地域の人巻き込んでいくための人望など、アントレで培った力を存分に活用し、地元である吉賀町に貢献したいです。
- ・今回のお年寄りとの関わりで、元気な大きな声と目を見て話すことが大切だということが分かりました。将来、理学療法師になって体の不自由な子供からお年寄りまでの生活範囲を広げることを目標に、アントレで身につけた思考力と行動力を活かしていきたいです。



【発表会を終えての振り返り】

- ・発表は何回しても毎回難しいなと感じます。ただ1年生の時に比べたら断然上手になったと思います。他人に自分の発表を聞いてもらってコメントを貰うのは新しいことを知れるし、自分の意志を確認できる良い機会だと思っています。
- ・自分の思いを上手く言葉にし、ちゃんと形にして発表するのは改めて難しいと感じました。アントレの1年生の時の活動はほぼ「もの」として残るものではありませんでしたが、何かしらの形で役に立つということを聴衆の方に伝えられて、そのことに関しての「私もこうしよう！」というコメントももらえて、1年生の1年間もやはり無駄ではなかったんだなと思いました。
- ・こんなに長く自分一人で話すのは初めてで、とても緊張しましたが、聞いてくれた人たちが相槌を打ってくれたり、質問してくれたりして話しやすかったです。また、発表の内容を褒めてもらうのと同じくらい、自分の将来の話褒めてもらったのが嬉しかったです。



2021年度 アントレ校内発表会

2021.12.22 (Wed.)

1・2年生
Presentation
by 22
projects

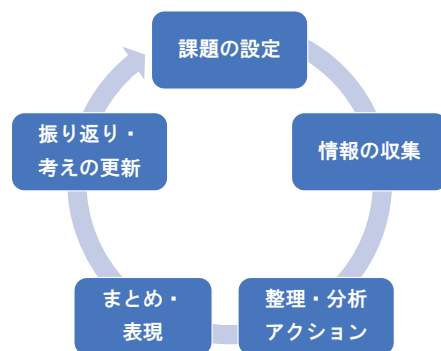
島根県立吉賀高等学校

アントレは未来を創る

これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと (Will) と、出来ること (Can)、そしてその需要 (Needs) を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

今日は、大きな探究のサイクルでいうと【まとめ・表現】に当たります。しっかりと聴衆に向けて、プロジェクトについて語ってください。そして、2月の発表に向けて、深めたり改善したりすべき点を明らかにしていきましょう。

そして、お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を出し合いましょう！

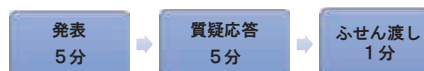


探究のサイクル

タイムテーブル

時間	内容
9:55-10:10	オープニング
10:10-11:15	グループセッション①
11:15-11:25	休憩
11:25-12:30	グループセッション②
12:30-12:35	学びのまとめワーク
12:35-12:45	講評・クロージング

グループセッションについて



×

各ブース4～5プロジェクト × 2回

発表プロジェクト一覧

チーム番号	名前	プロジェクト名
1 1	船木、河内慧、長井	防災
2 1-1	井上太	保育園児と伝統遊戯で遊ぼう!!!
2 1-2	大谷	子どもたちが自分たちで「楽しみ」を生み出せるようになるには
2 1-3	齋藤夢、永田真、三浦彩	子どもと関わって遊ぼう
2 2	岡本、中川、石田、宮本、三浦時	放課後スクラマズで笑顔伝播!
2 3	児玉、齋藤泰、石川、土田、田丸	子どもの遊び場を作る
3 1-1	濱田	新畑計画
3 1-2	川口、森	SNSで農業の魅力を発信
3 1-3	江谷、前田	吉賀町方言タオルでPR
3 1-4	松井、山田伊	化粧品開発
4 1	石井、友重、伊藤星、松本	吉賀町盛り上げ隊
4 2-1	泉、清水、増本	コウヤマキからスプーンを作る
4 2-2	野村輝、谷上、山本	地域をつなぐお米イベントプロジェクト
5 1	潮、河村海音、河村海香、黒田	動物と人間の共生
5 2	成本、浅尾、房崎、松谷	学校活性化プロジェクト
5 3	内田、三宅、小田麗、豊方	5 3遊プロジェクト
5 4	三原、空内、河野	放置されている碑を使って顕著対策をしよう
6 1	古瀬、田瀬、北川	動画で平瀬の端をPR!
7 1	下野、武岡、小田裕、河内花、仲野	外国の食文化を給食を通して小中学生に伝えていく
7 2	伊藤優、永田、山田光、中村、野村あ	海外の文化を遊びを通して小中学生に伝える
8 1	藤村、水村、向井優、坂崎	高齢者を笑顔にしよう
8 2	井上麗、向井陽、吉本	買い物代行プロジェクト

アントレ校内発表会を通して

【生徒の感想】

- ・自分たちだけでは気づくことができないことを言って貰えてとても良かったです。たくさんさんのチームの発表を聞いてプロジェクトは違うけど盗めそうなものが沢山あったので、良かったものは全て吸収して自分たちのプロジェクトに活かしていきたいです。頑張ったことはプロジェクトをいいものにするためにアイデアを出し続けたことと、大学生やフィールドワーク先の人に率先して質問に答えたり、会話をしたことです。
- ・自分から積極的に行動することができたのと、協力者のありがたさに改めて感謝した期間でした。ひとつのプロジェクトが大きくて、次のことをする時間がなかったので、小学生ともう少し関わりたかったです。小学校の先生と話をさせてもらって、例えば5年生が6年生のために？なにかするとか？などができたらいいかなって思います。

【教員・伴走者の感想】

- ・内容は工夫されていて、自分なりにいろいろと考えて取り組んでいることが伝わった。少し今後の見通しが立っていないと感じられるものもあった。
- ・現実から掛け離れたもの、どう考えても実現不可能なものといった類のテーマはなく、個性溢れるテーマが多くて面白かった。生徒達が現実をきちんと見て、彼らなりのすり合わせをしてきたのが分かった。
- ・少人数のグループでやるようになったせいか、昨年度・一昨年度と比較すると、生徒の個性が強く出ているプロジェクトが多くなったような気がして面白かった。自分の進路と直結しているプロジェクトをやっている生徒や、本当に好きなことをテーマにしている生徒は、発表の様子から熱い思いが伝わってきて印象的だった。

【来場者の感想】

- ・生徒自身が身をもって感じる課題や現状についてテーマを設定しているところが素晴らしいと思った。実際にフィールドワークを実施していく中で内容が変化していくのは仕方ないが、当初の目的からずれていると感じる発表もあった。
- ・全体を通しての課題として、この活動は初めて見た人にプロジェクトの内容が伝わるのかどうかの本質だと思うので、身内に伝わる発表でなく、誰にでも伝えられるようにクリアな目線で発表に取り組むことが重要だと思った。







島根県立吉賀高等学校



アントレプレナーシップ教育 成果発表会



日時

2022年

2月10日(木)

13:00開場～16:00

参加
無料

ぜひ見に来て
ください!



会場

吉賀町民 六日市体育館

内容

1・2年生全員による
“プレゼンテーション!”
(13:10～15:30)

吉賀町をフィールドに学んだ成果を発表します!



コメンテーター

青山学院大学：教育人間科学部

樋田 大二郎 教授

大正大学：地域創生学部

浦崎 太郎 教授

法政大学：キャリアデザイン学部

寺崎 里水 教授

青山学院大学：教育人間科学部

大木 由以 助教

日本女子大学：家政学部

樋田 有一郎 学術研究員

＼こちらもぜひご来場下さい!／

「吉賀町サクラマスプロジェクト
フォーラム2022」

日時 2022年2月11日(金)

13:30～16:10

場所 町内各公民館

内容 ●大海原を回遊中の
サクラマスに聞く!
●志々田まなみ氏講演

イラスト/吉賀高校 美術部 増本渚

*新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し実施します。ご来場の際は消毒・マスク着用をお願いします。

お問い合わせ先：TEL 0856-78-0029 吉賀高等学校

2021年度 アントレ成果発表会

2022.2.10 (Thu.)



イラスト:1年 増本渚

()年()組 氏名()

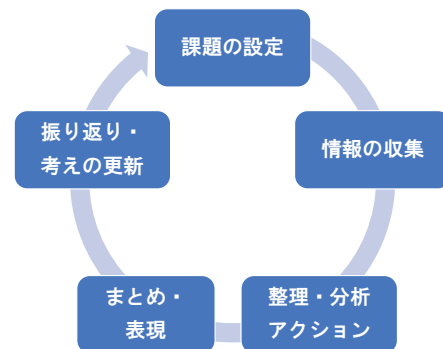
島根県立吉賀高等学校

アントレは未来を創る

これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと (Will) と、出来ること (Can)、そしてその需要 (Needs) を掛け合わせて、あつたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

今日は、大きな探究のサイクルでいうと【まとめ・表現】に当たります。しかもこれまでは「チーム」で発表でしたが、今日は「個人」です。しっかりと聴衆に向けて、あなただけのアントレについて熱く語ってください。

お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を出し合ひましょう！



探究のサイクル

第1部ブースセッション

時間	内容
10:00-10:10	オープニング (校長・生徒代表挨拶)
10:10-12:00	各ブースで個人発表
12:00-12:15	学びのまとめワーク / (審査)
12:15-12:20	ブース代表発表

第2部ブース代表発表

時間	内容
13:15-13:30	第2部 オープニング
13:30-15:30	ブース代表発表 (前半5人)
15:30-15:50	講評 / 樋田大二郎先生・浦崎太郎先生
15:50-16:00	クロージング (教頭・生徒代表挨拶)

【 講師 】

青山学院大学	教育人間科学部	教授 樋田大二郎 先生
大正大学	地域創生学部	教授 浦崎 太郎 先生
法政大学	キャリアデザイン学部	教授 寺崎 里水 先生
青山学院大学	教育人間科学部	助教 大木 由以 先生
日本女子大学	家政学部	学術研究員 樋田有一郎 先生

評価のルーブリック

発表者の立ち方	観望者の工夫	自分の役割	役割プロジェクト	ルーブリック
<input type="checkbox"/> 発表者が情報 (様式) のみを伝えている <input type="checkbox"/> 声の大きさや姿勢が適切である	<input type="checkbox"/> 観望者が整理されている <input type="checkbox"/> 文字が読めるように書かれている	<input type="checkbox"/> 目的の整理がなされている <input type="checkbox"/> プロジェクトへの参加	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	1-1-1
<input type="checkbox"/> 聴衆を巻き込むとされているが、内容を伝えることが多いため、聴衆の反応が薄い <input type="checkbox"/> 聴衆の反応が薄い	<input type="checkbox"/> 観望者が整理されている <input type="checkbox"/> 文字が読めるように書かれている	<input type="checkbox"/> 目的の整理がなされている <input type="checkbox"/> プロジェクトへの参加	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	1-1-2
<input type="checkbox"/> 発表資料以外の情報も追加して発表している <input type="checkbox"/> 聴衆の反応が薄い	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	<input type="checkbox"/> 目的の整理がなされている <input type="checkbox"/> プロジェクトへの参加	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	1-1-3
<input type="checkbox"/> 発表資料以外の情報も追加して発表している <input type="checkbox"/> 聴衆の反応が薄い	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	<input type="checkbox"/> 目的の整理がなされている <input type="checkbox"/> プロジェクトへの参加	<input type="checkbox"/> プロジェクトの目的や目的が伝わる <input type="checkbox"/> 情報を収集できている	1-1-4

アントレ成果発表会を通して

【生徒の感想】

- ・はじめは、個人の発表ってめんどくさいな、と考えていました。しかし、皆の発表を聞いているうちに、今回の発表会はやってみて正解だったと感じました。というのも、今までの発表形式では、喋る役割が少ないという人もいたと思います。しかし、今回は、生徒一人一人が自分のことについて話す機会があります。だから、自分の活動を振り返る機会も生まれるので、とてもアントレに適している発表形式だなと感じました。本当に今回は、「自分の学びを振り返る」ということに特化していて、とても良い発表会だったと思います。
- ・ここ2週間くらいアントレの時間や放課後、家に帰ってからも作ってきた紙芝居が完成できてよかったです。先生の言動や周りの雰囲気から発表の場は少し緊張感がありました。1人でみんなの前での発表は少し緊張するけど、他の人のプレゼンを聞くことで自分の為になることがあったり他の視点を知ることができたりできるので私は好きです。今までみんなの前で自分のことを話すことや、プレゼンなどほとんどしたことがなく、県外から吉賀に来てプレゼンをしてこんなにもみんなが自分の話を聞いてくれるんだと思ながらも自分が話せていて不思議な気持ちになりました。自分の発表では、少し緊張してたのが出てしまったと思ってます。直前で考えたペルークイズは面白かったと言ってもらえて嬉しかったです。少し原稿を見すぎてしまったけど楽しかったです。自分が話す内容をどんな人が聞いてもおもしろかった、興味を持てたと思えるような発表にしたいです。代表発表では前半までしか聞けなかったけど、選ばれた人の共通点を見つけられました。みんな饒舌で何回も練習をしたというのが伝わってきました。また、自分の思いをしっかりと持って大人からの少し難しい質問にもスラスラと答えていて主観的に考えることだけでなく客観的にも考えていました。次の機会があるときは私も発表会で感じたところを上手く盗んで自分なりに良い発表をしたいです。
- ・みんな自分なりに行った活動を紙芝居にわかりやすくまとめていて良かったです。ほとんどの人が将来の夢や興味のある分野だったのでアントレという活動を通して色々なことを学んで行けたらいいなと思いました。また、自分自身の振り返りとしてはみんなにわかりやすくゆっくりと伝えることが出来たと思います。代表に選ばれたのはびっくりしたけどいい経験になりました。
- ・今日は、色々なチームの個人発表を聞いて、そのプロジェクト内で行ったことや、大変だったこと、どうしてそうなったのかなど、詳しく過程を知ることが出来ました。自分とはプロジェクトは違うけど、人それぞれの意見を聞いて、自分のプロジェクトにも活かせるようなところがあったので、その意見や考え方も借りて、今後の活動に繋げて行きたいです。

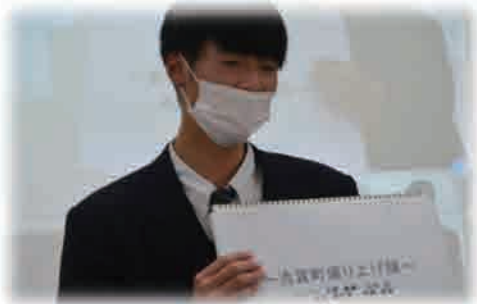
【教員・伴走者の感想】

- ・生徒たちのプロジェクトは、社会の実態に沿ったとても魅力的なものが多いと感じました。縦のつながり（学年をこえて、プロジェクトを継続すること）や横のつながり（適当な機関に生徒たちをつなげてあげること）をつくって上げることが教員として求められるなあと改めて思いました。来年度も頑張ろうと思います。
- ・活動内容、成果に加えて自分の課題や克服できたことなど、失敗談も含めて報告する生徒が例年に比べて多い印象だった。活動の過程や生徒自身の学びや成長が聞き手にも伝わり良かった。やはり、2年生は上手だった。
- ・これまでは発表の得意な子にお任せ感があったが、全員が発表するという形式がとても良かった。普段あまり積極的でない生徒も頑張って発表していたり、2年生は1年時より自信がついて上手になっている姿が見られた。

【オンライン視聴された方の感想】

- ・生徒さん達の考えがしっかり伝わって、良かったです。皆さんの活動や振り返り、よく頑張っておられると思いました。コロナ禍の活動は制限もあったと思いますが、これからも状況に合わせて活動して行って欲しいです。発表も Zoom を使って、工夫されていて良かったと思います。ありがとうございました。
- ・どれも素晴らしい取り組みで面白かったし、こんなことまでしているのかと知ることが出来て驚きました。今後も様々なことに目を向けて、入り込んで調べて発信してもらいたいと思いました。外国の料理を給食に出す取り組みは、なかなか外国の文化に触れる機会が少なく、町内には様々な国籍の方がいるので、その方たちの理解を深めるためにも、その国の料理を知ってもらう機会を作ったのは素晴らしいと思いました。今後も違う国での料理を給食に出してもらえるといいと思いました。小学生の子供がいるのですが、その日の給食のことを家でも話してくれていました。どうしてそのような給食が出たのかがその時わからなかったで、その日の給食のことを家庭でも振り返れるようにしてもらえると、家庭の中でも理解が深まると感じました。
- ・生徒たちが取り組むリアルが伝わってくる発表だった。まさにまちの課題と言えるテーマに向き合っていて印象に残った。サクラマスが戻りたくなる、戻って来られるまちづくりに大人も本気で笑顔で向き合います！

成果発表会 ブース代表など



防 災

11班

船木 雄斗・長井 尋音・河内 慧

アントレ11班

プロジェクト名:防災

メンバー:船木雄斗、長井尋音、河内慧

テーマを選んだ理由

吉賀高校で防災の活動をされていた先輩のお話に惹かれ、防災をテーマに選んだ。

班員それぞれの経験や知識を生かせるテーマだと感じている。



will

=何をしたいのか

先輩の意思を継ぎ、吉賀町を災害が来ても安心な街にしたい

can

=何ができるのか

家庭に身近な備蓄について取り組みたい

needs

=何が必要とされているのか

まず防災備蓄の現状を把握できるようにすること

一般的な家庭備蓄の取り組み状況

食料や飲料水を準備していると言う人の割合は 45.7%

【大都市：50% 中都市：46% 小都市：42%】

出典：内閣府〈防災に関する世論調査〉（h29.11）

活動前の考察

物資を揃えやすい都会でも、50%の人しか備蓄していない
吉賀町の備蓄率は3~4割くらい？



11班の活動について



アンケートの結果

備蓄は必要だと思うか

自分の家で備蓄をしているか

備蓄にかけたいと思うお金の額は？



備蓄についてのお悩み

- ・何を備蓄していいかわからない
- ・準備や点検、保存が面倒だ
- ・スペースがない
- ・季節によって必要な備蓄品がわからない



活動を通しての考察

町民の方の防災意識は僕たちの想定よりも高いことが分かった



寄せられたお悩みなどの解決を目指し、備蓄についてまとめた冊子を作成する



アントレを通して学んだこと

僕がアントレで学んだことは簡単なパソコン操作と、話し合いの場での、意見の喋り方です。多くの経験を積むことができ、またやりがいのある活動でした。今回培ったことを次に活かせるよう、しっかりアンテナを立てていきたいです。 河内

アントレを通して学んだこと

僕がアントレの活動を通して学んだことは、班のメンバーで効率的に作業をする事が大切だということです。効率的に作業をしないと時間内に終わらすことができず後々大変になってしまったことがあるからです。このことを今後に生かして行きたいです 長井

アントレを通して学んだこと

私がアントレを通して学んだことは、チームで協力することの大切さと、自分たちにできることがないかを見つけることです。チームのメンバーがいなければ、ここまで活動することはできませんでした。自分たちは予備知識がないことでできることが少ないのではと考えていましたが、できる限りのことは、やり通せたと思います。 船木

お世話になった人

吉賀町で防災について啓発活動をされている樋口ふみさん
被災経験を持つ佐藤慶治さん
個人事業主の星野奈々さん
青山学院大学の樋口海翔さん
同じく梅谷由美子さん
朝倉公民館の方々
吉賀町の中等教育に関わられる方々
アンケートにご協力いただいた保護者の皆様
どうもありがとうございました。

子供と関わって遊ぶ

21班①

齋藤 夢結・永田 真帆・三浦 彩乃

子供と関わって遊ぶ

1-2 齋藤夢結
永田真帆
三浦彩乃

21班

きっかけ

<will>

子供たちと関わりたい

「need」

昔は地域の年長者が年下の面倒を見ていたが、今は他のお姉さんお兄さんとの触れ合いが少なく、子供の社会性がつきにくい

→子供たちと一緒に制作活動をすることで社会性を作る

実践したこと

保育園児と11月1日に秋の制作活動しました。

私たちは、一から準備を3人で協力してやりました。



～実践でよかったこと～

- ・子供たちと関わることができた。
- ・子供たちの気持ちを読み取ることができた。

～上手くいかなかったこと～

子供たちに教えることが難しかった。

(気づき、発見)

- ・保育園児のペースに応じて対応する

(もらったアドバイス)

- ・最初に自分たちで試作を作ってみる。

個人の変化

- ・個人の変化では、子供と関わるのが普段あまりなく不安だったが、活動していく中で、楽しく活動できた。

大学生と関わる中での変化

- ・大学生と関わる中での変化では、はじめは緊張してしまって話すことが難しかったが、大学生と関わっていく中で色々なアドバイスをもらえたりして、少しは自分から話せるようになった。

一年間アントレの活動を通して

成長したこと

- ・幅広い世代の人と話せるようになった

今後について

- ・様々な人たちとコミュニケーションをとること

お世話になった人たち

七光保育所さん

オンラインフィールドワークでお世話になった人たち

おもちゃ美術館 馬場副課長様

大学生 高橋 明詠 様

お礼

七光保育所の先生方や大学生の高橋さん、おもちゃ美術館の馬場副課長様が優しくアドバイスをしてくださったおかげで楽しく活動することが出来ました。分からないこともたくさんありましたが、優しく見守ってくださったおかげでアントレの活動を続けていくことが出来ました。ありがとうございました。



子どもたちが自分たちで「楽しみ」を 生みだせるようになるには

21班②

大谷 優羽

子どもたちが自分たちで 「楽しみ」を生みだせる ようになるには

チーム21

大谷 優羽

今年のアントレが始まるまで

子どもが好き・将来、子どもにかかわる仕事がしたい！



春休み：学童のボランティア

そこで・・・

小学生 ⇒ 「学校が楽しくない」と言っていた

仮説

小学生が「楽しくない」と言っている



↓だから

自分たちが
楽しい



自分たちで楽しみを
生み出せる



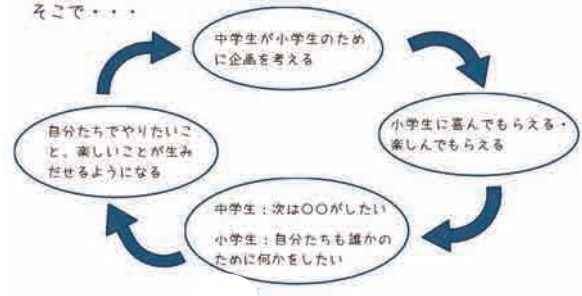
○現状分析(小学生や地域の方と話して…)

- 1, 小学生が「学校が楽しくない」と言っている
- 2, 日常にある「楽しい」を感じられていない
- 3, お互いの良さや苦手なところを理解できていない



楽しみと思えることがあれば、
毎日の生活が
楽しいと思えるようになるはず？
心に充実感が生まれるはず？

そこで・・・



実際に行った活動

七力祭りで中学生と

ブースを運営する！

対象：吉賀中学校3年生



活動内容

- 7月 七日市小学校の校長先生とお話
七日市公民館の主事さんとお話
- 8月 七光保育所の先生とお話
保護者の方とお話
公民館の主事さんとお話 ⇒ 七力祭りでブースを開く
吉賀中学校の先生に説明とお願ひ
- 9月 吉賀中学校3年生にプレゼン
- 10月 企画の話し合いスタート
計2回集まって話し合い (3回目は中止)
- 11月 七力祭りで運営



決

1 1月6日 七カ祭り当日 アンケート (参加してくれた7名に実施)

1, 七カ祭りの企画に参加して思ったこと

- ・みんなが楽しそうにしてくれたから参加してよかったなと思った
- ・楽しかった ・たくさん来てくれてやりがいがあった
- ・コロナ禍でなかなか地域の人たちと関わることがなかったので、今回の企画に参加できてとても楽しかった
- ・みんなに出来たプラ板を渡した時にとても喜んでもらえたから、やってよかったと思った
- ・三年生と考えると企画をしたのも楽しかった

2, 当日、七カ祭りに参加して感じたこと、気づいたこと

- ・自分たちが一生懸命作ったものにどんだん人が来てくれるのがとても嬉しんだなって思った
- ・来た人が喜んでいてうれしかった ・小さい子が楽しかった
- ・小学生や保育園生などの小さな子たちが楽しそうに色塗りをしたり、折り紙でフォトフレームを作ったりする姿をみて、私も楽しいし、嬉しかった。
- ・思ったより人が来てくれて楽しかった
- ・企画をやっている側も楽しかった

私が思っていること

- ・「行動する」⇒「感謝される」⇒「嬉しい」⇒「次はこうしてみよう！」のサイクルが生まれる
- ・活動をする⇒友だちのいいところやその子の苦手な事を知ることができる⇒学校生活でも友だちの関わり方が変わる?!
- ・日常にある「楽しい」をもっと感じられたら、「やりたいこと」が見つかる?!
- ・子どもたちが「やりたい!」を声に出せるように、言い出しやすい環境を作ってあげたい
- ・自分が楽しみながら活動しないと、周りの人や一緒に活動する人も楽しいと思ってくれない

今回の企画を通して感じたこと

- ・何度も立ち止まって考えることが必要
- ・中学生の団結力を感じた
- ・ひとりでは活動をする事ができない
- ・コロナウイルスの感染拡大で予定が変更・・・



今後、取り組んでいきたいこと

自分の思いや考えを口に出せる環境を作っていきたい!!

具体的に考えていること

①学校の先生に「なんで?」「どうして?」を聞ける会を開いてみる



②子どもたち1人1人が“先生”となり、子どもたちが好きな事、興味があることをプレゼンする

1年間アントレをしてきて

【はじめ】

不安

誰に協力してもらおう・・・

小学生が楽しいことって何?

地域の人は協力してくれる?

どんなことが出来る?

【現在】

不安に思わなくていいんだ

地域の人も協力してくれる!

やってみたらなんとかなった

信頼って大事!

みんなと活動するのは楽しい!



お世話になった方々

- 七日市公民館主事 茅原 美里さん
 - 七日市小学校 岡本 博 校長先生
 - 七光保育所 桑原 文子さん
 - 保護者の方々 河野 千明さん
 - 吉賀中学校の生徒の皆さん 水村莉子さん・下野真季さん・宇田希愛来さん
 - 永田心菜さん・藤本由佳さん
 - 齋藤匠真さん・松岡陽太さん・大谷奏羽さん
 - カスマヤ書店 糟谷 直輔さん
 - オンラインフィールドワーク 馬場さん
 - 大学生の方 河野 千明さん 高橋さん
- ご協力ありがとうございました。

保育園児と伝統遊戯で遊ぼう!!!

21班③

井上 太一

保育園児と伝統遊戯で遊ぼう!!!

21班 2年2組 井上 太一

My will

将来的にサッカーの指導者になりたいくて、そのためには子供の発達のことを考えながら教えなければいけないので子供の発達に興味をもった

きっかけ

柿木保育園の園長先生と話しているうちに家に帰って外で遊んでいる子供は少ないし、なかなか伝統遊戯をするお家がすくないと知った

仮説

伝統行事はするが、伝統遊戯をする習慣が少ないため、自分たちがイベントを開くことにより、発達途中の子供たちに良い影響(抵抗力、社会性)を与え自分たちで物事を考えられる未来が作れるのではないかと

NEEDs

NEEDs

- ・外で遊んでいる子供が少ない
- ・お正月に伝統遊戯をする家庭が少ない



凧作り

11月17日
蔵本さんの家で
蔵本さんとタコ作り



凧あげ

・凧あげ

柿木保育園で二人の保育園児で遊んだ

・子供たちの様子

楽しそうな様子であった、工夫しながら凧を飛ばしていた

結果

・凧あげの結果

しっぽがなかったからバランスがとれてなかった

・仮説の検証
できなかった

園長先生から

・園長先生のコメント

風と走る距離がなかったからあまり思うように飛ばなかった

子供たちは工夫しながら飛ばしていた
自分たちでも作ろうと思う

振り返り

・振り返り

走る距離を考えて凧を作りたかった
検証できなかったから検証できるよう工夫したい

・今後のプロジェクト
今後は違う伝統遊戯もやりたい
次は保育園児と一緒に遊びたい

一年間で学んだこと

僕が一年間で学んだことは、一人でも頑張ればアポとりからプロジェクトができることを学びました。なぜなら僕の「性格上どうせできないだろ」と言われたけど、実際に発表した時、コメントが書いてある付箋に「一人でプロジェクトをしてすごい」とか、ちゃんとできていたとか書いてくれたので学びでもあったし自分の自信にもなりました。

今後取り組みたいこと

今後僕が取り組みたいことはウッドスタートという木育活動に力を入れていくことです。ウッドスタートというのは僕がこの一年間にしてきたもう一個のプロジェクトで東京のおもちゃ美術館と連携して進めてきましたが、時間がかかるプロジェクトだったので、今回は発表しませんでした。なので今からはウッドスタートに取り組みたいと思います。

お世話になった方

- ・ 蔵本さん
- ・ 東京おもちゃ美術館 馬場 清 さん
- ・ 高橋 明詠 さん（樋田有一郎、大木由以先生）

とてもお世話になりました。
今度は別の物を作ってみたいです。
夏休み、釣りに行きましょう！



放課後サクラマスで笑顔伝播！

22班

岡本 萌果・中川 綾音・石田 優大
三浦 玲稀・宮本 芽衣

放課後サクラマスで 笑顔伝播！

22班 岡本萌果 中川綾音
石田優大 三浦玲稀 宮本芽衣

仮説

子供の遊べる場所、参加できるイベントが少ない



子供たちが参加できるイベントを企画する



子供の遊べる場所が増え、子供の笑顔が溢れる

未来が作れる！

ニーズ

イベントや子供の遊ぶ場所や子供が運動する場所
が少ない



イベントや遊ぶ場所を作ることが子供の発達に
必要であると考えた

きっかけ

**「放課後サクラマスで高校生の考えたことを形に
して欲しい」と**言われた

○「放課後サクラマス」とは・・・

吉賀町の小学校で行う放課後の活動のこと
昔の遊びをしたり、運動をしたりしている



フィールドワーク

- ・朝倉公民館：斎藤心咲さん
- ・教育委員会：中村浩志さん
- ・放課後サクラマスの見学（2回）
- ・オンラインで株式会社ピコトン 内木広宣さん

フィールドワークでの気づき・発見

- ・朝倉公民館
- 自分たちの思いや目的、狙いを具体的に
- ・教育委員会
- プロジェクトを実現しやすそう

フィールドワークでの気づき・発見

- 一回目の見学
- 子どもたちの個性が豊かで良い環境だった
- 二回目の見学
- 講師の方の存在は大事！
- 株式会社ピコトン
- 子どもたちが自由に活動できるように配慮する！

学び・変化

- ・チームで協力すれば一人では出せない意見も出せると学んだ
 - ・普段から吉賀町の課題を考える機会が増えた
 - ・苦手なことにも挑戦するようになった
- 例：アポ電、zoomでの大学生交流、質疑応答など・・・

ふりかえりコメント

石田：一年間のアントレを通して、先を見据えながら行動する大切さを学ぶことができました。また、大人の方の力を最大限借りるというすべも身につきました。これからのアントレでは今回学んだことを生かしながら自分の長所をのばしていきたいです。

三浦：この1年の活動で人と、会話できないわりには、だいぶ会議に参加でき、いろいろな方々の力をかり、無事に終わり自分にとっても成長できた。良い経験ができたと思います。まだ僕は、1年目なので次回も頑張りたいと、思います。

ふりかえりコメント

宮本：私はこの1年間のアントレでひとつのプロジェクトを実行するには時間がかかるということ学びました。今まで大人の方と沢山話し合ったり、色々な方にアドバイスを貰ったりと準備をしてきました。来年のアントレも沢山学び、大きく成長できるように頑張りたいと思います。

ふりかえりコメント

岡本：私はアントレを始める前から広い視野を身につけたいと考えていて、そのために一つの物事を多くの視点から見ることを意識していました。様々なことを経験して、そのたびに自分の中でしっかりと考え、自分なりの考えを見つけられるようになったのでよかったです。この一年間のアントレはとても深く実りあるものとなりました。

ふりかえりコメント

中川：一年間のアントレを通してたくさんの大人の方と関わり広い視野を持って物事を考えることの大切さを学びました。また、今まで以上に大人の方にも自分の意見を言えるようになりました。これからも広い視野を持ってものごとを考え自分の意見に自信を持って活動していきたいです。

お世話になった方々

- 朝倉公民館：斎藤心咲さん
- 教育委員会：中村浩志さん 城戸明美さん
- 株式会社ピコトン：内木広宣さん
- 大学生：滝谷 諒さん 村上 結さん

様々なことを教えてください本当にありがとうございました！

子どもの遊び場を作る

23班

兒玉 康生・齋藤 泰稀・土田 阿子
田丸 昊・石川 星空

23班

プロジェクト名：子どもの遊び場を作る

メンバー名： 兒玉康生 齋藤泰稀 土田阿子 田丸昊 石川星空

仮説

- ・ 高校生までの子供が遊ぶ場所が少ない。
- ・ 自分たちで遊び場所を作れば吉賀町の子供たちが満足して外で遊べるようになる。



きっかけ

- ・ 吉賀町には高校生までの子供が遊ぶ場所が少ない
- ↓
- ・ ゲームばかりになると人との関わりが減り社会性がなくなったり時間が守れなくなったり夜遅くまでやり暗い中でやって目が悪くなる
- ↓
- ・ なら自分たちで外で遊べる場所を作ればいいんじゃないかと思えた



ニーズ

- ・ 遊び場所に行くまでの道が遠すぎたり交通手段が不便なところ
- ・ 人によって遊び場まで遠いところ
- ・ 家の近くに遊んだりできる場所がないから家にこもってゲームばかりになる



町内フィールドワーク

役場の石川さんに自分たちで公園などを作れるかなどを伺った

↓

一から公園などを作るのは資産や様々な問題があり難しい

↓

作るのではなく実際に今あるものを生かして活動してはと助言をいただいた

↓

実際に保育園などに行き子供たちと触れ合うことで今の子供たちの現状などを肌で感じ





オンラインフィールドワーク

青山学院大学の杉本さんに

- ・マップの制作の仕方
- ・ホームページの制作の仕方を伺いました



そこでは、ホームページに固執するのではなく、SNSなどでも同じことはできるのではないかと新しい視点から、

マップではスマホだけではなくパソコンなどを使用して実際のA4のサイズをイメージして作るとよいなどたくさんのアドバイスをいただいた。

アクション・プロジェクト

町内施設使用状況がわかるホームページ

- ・吉賀町にある施設の使用状況がわかり予約などのできるホームページ（SNSなども検討中）を作る。

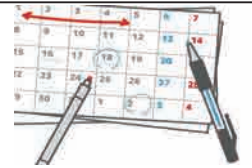
吉賀町公園マップ

- ・吉賀町にある公園や施設、観光スポットなどを描いたマップを保育園、小学校、中学校、高校に置く。



今後の予定

- ・12月22日（今日）中間発表
- ↓
- ・マップ、ホームページ作成（3学期入ったらすぐ）
- ↓
- ・マップを配る、ホームページ貼る（作成したらすぐ）
- ↓
- ・効果があったか調べる（2年の三学期が終わるまで）



チームとしての変化

最初は、公園など大きなものを作ることに頭になかった

↓フィールドワークなどを通して

マップやホームページを作って広めるなど今ある既存のものを生かすことの利便性と重要性を知った。

- ・当たり前のことを重要に考える
- ・一つのことにとらわれすぎない



成果発表を終えて各メンバーのふりかえりコメント

兒玉康生：緊張はあまりしなかったけど自分の言いたいことがあまり言えなかったのが唯一の後悔です。

齋藤泰稀：今年の成果発表は紙芝居を使った発表で緊張しておどおどしたけど声はきはきと喋れたのでよかったです。

田丸昊：緊張したけど一年間で学んだことすべて発表でき、伝えたいことをしっかりと伝えられたのでよかったです。

土田阿子：すごく緊張したけどこれまでの活動の成果を発表できた。反省としてはもう少しスムーズにしたかったです。

アントレでお世話になったかたちへのお礼

青山学院大学：杉本さん

- ・オンラインフィールドワークで杉本さんにホームページの作り方やマップ作りのアドバイスをいただきこれからの進め方の参考になりましたありがとうございます。

吉賀町役場企画課：石川さん

- ・町内フィールドワークで石川さんに公園を作りたかったや吉賀町内にはどのような施設があるか教えていただき進めているプロジェクトがスムーズに進んでいます。ありがとうございました。

アントレでお世話になったかたちへのお礼

大学生：大岡愛美さん、矢田桃香さん

- ・プロジェクトを進めていく中で分からないところなど優しくアドバイスを下さったおかげで進めやすくなりました。ありがとうございました。

吉賀町を方言でPR

31班①

前田 大成・江谷 稟空

吉賀町を方言でPR Yoshika Dialect towel

1年 前田大成 江谷稟空

will

商品開発に興味がある
吉賀町を有名にしたい

町の現状

人口減少、高齢化
これという特産品がない

企画の提案 project

町の現状と自分の意見が合致した方言タオルをつくろう！

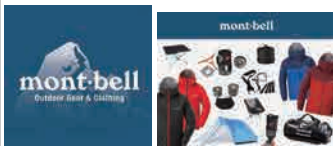
以前作られた吉賀町の方言タオル



詳細 detail

町外の方々に良さを知ってもらい
町内の方々に改めて良さを実感してもらう
・わやじゃけえ！
・ぶちせんない！

どのようにリメイクするのか
how to



montbellというアウトドア製品を作る企業にタオルの制作をお願いし、前回より耐久性のあるものにする。

montbellと吉賀町の関係 relationship



吉賀町はmontbellさんのフレンドタウンとなっており、

共に吉賀町をPRしてくれている。

費用は クラウドファンディング で集める。

必要な費用

cost

- モンベルへの支払い(55万)
- モンベルタオル1体あたり2500円200枚
- クラファンの手数料(15万)
- クラファンのリターン(10万)
- 輸入費などの予備費(20万)

目標合計 100万円！

これまでにしたこと

- 以前、タオルを制作、販売していた方に話を聞く ○
- 吉賀町役場岩本さんに話を聞く ○
- オンラインフィールドワーク ○
- montbellさんと連絡をとる△
- クラウドファンディングの許可をとる○

タオル.....?

montbellさんに

自作デザインのタオルを
作るのは難しい

と言われました



販売先

where to

- 町外イベント(サンフレ、フェア)
- ネットショッピング(ふるさと納税)
- モンベル提携店
- 町内の店
- 町内イベント(企画)

- 吉賀町役場企画課さん

- タイガーモブ(株) 鍵本さん

- 平島寧々さん、山田礼華さん、木下綾乃さん

- 長田さん

- 佐伯さん

お世話になった方々

- montbellさん

大変お世話になりました。今後ともよろしくお願ひ致します。

成長したこと前田ver.

アントレを通じて学んだ力は3つある。1つ目はコミュニケーション能力だ。アントレを通じて人と話す機会が増えたのでとても身についた。2つ目は仲間と協働する力だ。1年生2人で1から始めたので、分からないことが多く、お互いの絆が深まった。3つ目は見通しをもって行動する力だ。計画を立てて行動することでプロジェクトが円滑に進むことが大切だと学んだ。

来年度も引き続きこのプロジェクトを進めていきたい。

成長したこと江谷ver.

クラファンではお金が絡んでくるため、自分達の思いを熱心に、忠実に支援者に伝える必要がある

→豊富な経験を積んでいるいろんな大人に**正確に自分の考えを伝える方法**を教わって、私自身その力を身に付けることができた

新畑計画

31班②

濱田 義寅

新畑計画



2年 濱田 義寅

話の流れ

1. 始めたきっかけ
2. プロジェクト内容
3. 感じたこと・まとめ



なぜプロジェクトを始めたか？

大阪府から来て間もない頃にYoshikaげんき塾という吉賀町のイベント団体が主催している畑に参加。
⇒・畑の大変さと楽しさを知り、自らの手で畑を耕し野菜を育てたい。
・収穫した野菜を加工・販売し、畑を通して吉賀高校を知ってもらいたいと思った。

吉賀高校を知ってもらう理由

⇒吉賀町は少子高齢化や過疎化を受けており、このまま町内生が減ると吉賀高校が廃校になってしまうため畑を通して私のような町外から来た生徒を増やすことで...

いつまでも残り続ける学校になると考えたから。

BEFORE



初期の畑

AFTER



整地した畑



サツマイモ



落花生



大豆



紫キャベツ



サフラン

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

畑を始める
サツマイモの苗を植える

落花生の種まき

大豆の苗を植える
紫キャベツの種まき

水やり
・
雑草抜き
など

大豆・落花生の収穫
さつまいも収穫イベント開催

サフランを植える

イベント内容

チームメイトだけで収穫するのは大変
⇒生徒を対象としてさつまいもの収穫イベントを実施
少人数ではあるが集まってくれた。
その御礼を込めて、みんなで**焼き芋**をした。



プロジェクトをしていく中での成功・失敗

成功

- ・収穫イベントの実施

⇒少人数ではあるが生徒が参加してくれた

- ・少数ではあるが野菜ができました

⇒量にはばらつきはあるができた

失敗

- ・落花生の発芽率が良くなかった。

⇒夏の暑さで落花生が死んでしまった。

- ・紫キャベツが丸くならなかった。

⇒キャベツの植えすぎにより養分がいかなかった

さつまいもの使いみち

- ・地域の飲食店とのコラボメニューを開発

⇒やっと収穫できたさつまいもを**スイートポテト**と**芋けんぴ**を商品として販売



芋けんぴ



スイートポテト

畑で学んだこと

野菜作りの大変さ

⇒畑を耕し、水やりをほぼ毎日し長い年月をかけ収穫、加工をしたり大変なことが農業ではたくさんあるのだと学んだ。
その結果以前よりもっと食材に感謝するようになった。

自分自身学んだこと・成長したこと

人との繋がりの大切さと優しさにたくさん触れ

何事も挑戦してみる大事さを学んだ。

⇒畑以外でも多くのことに挑戦し、手伝ってもらいながら多くの方々とたくさんのイベントを積極的に行うようになりました。
今では、何事でも挑戦してみることが自分の強みになりました。

今後の取り組み



スイートポテトと**芋けんぴ**を販売することで多くの人に吉賀高校を知ってもらい、少子高齢化を受けている中でも人が集まる学校にしたいと思っています。

来年度では、今の畑をしながら**水耕栽培**に挑戦する



プロジェクトに関わった方々へ

今年から畑を始めた私にまだちゃんとした目標が立っていないときに、アドバイスをくださった鍵本さんを始め、大豆おくださった福本さん。少数ではありましたが、一緒に活動した大学生の皆さん。はじめに畑に誘っていただき、アントレのサポートまで、何から何でも手伝ってくださった齋藤義徳さん。

とても恵まれた環境で活動できたを思います。

誠にありがとうございました。

化粧品開発

31班③

松井 俊樹・山田 伊吹

プロジェクト名



化粧品開発



松井俊樹 山田伊吹

プロジェクトを始めた理由…

疑問 吉賀町には良さがあるのになぜ人が来ないのか

仮説 吉賀町を知る機会がないから、良さに気づけない

商品開発へ

なぜ化粧品なのか

- ・ 少子高齢化と過疎化が進んでしまい主に農産業が衰退している
- ・ 知名度を上げて吉賀町に来てもらいたい

世の中の需要	コロナ禍でマスクが原因で肌荒れを起こす人が多い
吉賀町の特徴	吉賀町ならではの「有機米の産業」

米をつかった化粧品を作る！！

地域商社の会議に参加して…

・ 知ったこと

1. 吉賀町を盛り上げようとしている人がいた
2. 商品開発するときの心得を教えてもらった
3. 地域の人に愛される商品でなければいけない

・ 指摘されたこと

1. 売れる世代が偏っていること
2. 肌に合わなかったとき責任が取れないこと

➡ 行き詰まってしまう諦めた

土井さんに米を使った化粧水について質問して…

吉賀町の特産品を使って吉賀町産業を盛り上げたいって思うことはとても素晴らしいことだし、商品開発してくれたら農業人口の減っている有機米の農家さんの希望になるよ。



期待されている！！

この計画を続けたい！！
頑張らなきゃ！！

米ぬかが有効活用されずに、廃棄されてしまっている

米ぬかを使って化粧水を作りたい

栄養、化学肥料の成分を凝縮している場所

有機米に価値がある！！

オリジナルの化粧水を自分たちで作った

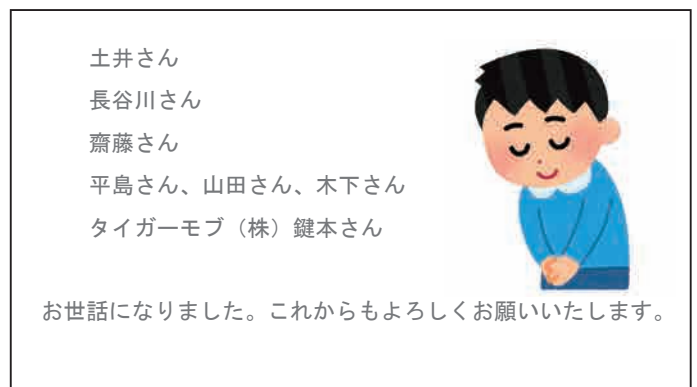
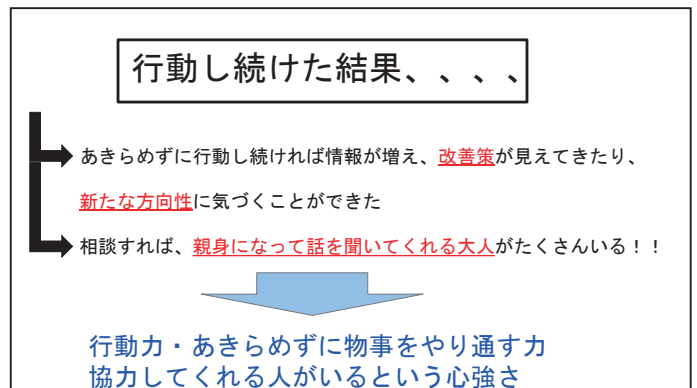
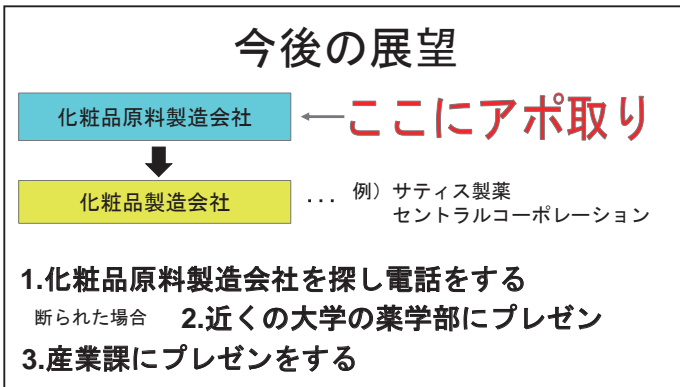
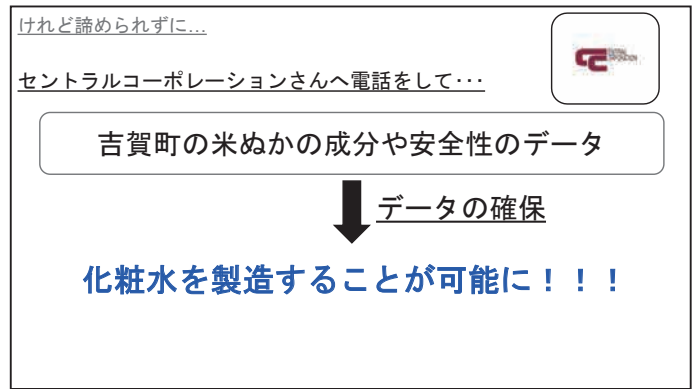
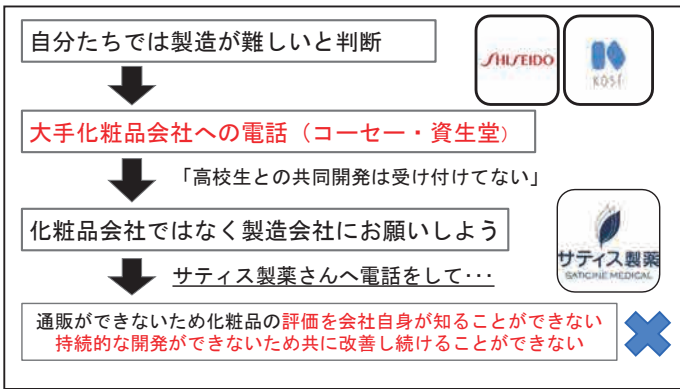
オリジナルの化粧水を試作した

防腐剤が入ってなくて…

数日後に変なおいがしたため使用を断念

作った結果

長期的な効果を知ることができず、期待していたような結果を得ることができなかった



SNSで農業の魅力発信

31班④

川口 加偉・森 匠陸

SNSで農業の魅力発信

31班 川口加偉 森匠陸

きっかけ

川口君のファミリーさんの土井さんが農家をしていることもあり、農業に誘われる。そこから、米作りをすることになりました。そして実際に農業をしていく上で、今の農家の苦しい現状の半面、楽しいイベントや行事があることに気づきました。

また、農家さんの横のつながりが強固なものであるということや助け合いが大事ということも学びました。

仮説

今の農家の現状が、若い世代の農家離れや後継者不足などに悩んでいる。だから、自分たちが若い世代ならではの目線で農家の楽しいところを伝えていく事で、若い世代の農業への関心や興味を誘うことができる。

あくまで、自分たちは興味の入り口を持ってほしいというのが活動のテーマ。ちょっとでも関心を持ってもらいたい。

ニーズ

若い世代だからこそその目線で、宣伝をしてもらいたいというニーズがある。

例 インスタグラムやツイッターの活用など

後継者として若者に興味を持ってほしい。

アクション/プロジェクト

【現在までに実践したこと】

インスタグラムのアカウント作成や写真投稿など、若い人たちの目につきやすいような宣伝をした。

【今後の予定】

持続的なインスタアカウントの運営など、若い世代の目につきやすいように意識して積極的に宣伝をしていく

実際のインスタアカウント

まだまだ、投稿は少ないですがフェイスブックにも飛べるようにリンクが貼ってあるので、ぜひ見てみてください。



町内フィールドワーク +オンラインフィールドワーク

町内フィールドワークでは、実際に土井さんに農家の現状など、当事者でしかわからないような情報を教えてもらいました。

オンラインフィールドワークでは、タイガーモブ（株）鍵本さんに今の現状と課題のすり合わせをしてアドバイスなどをもらいました。

農作業の手順①

1. 粃を育てる
2. 粃まき
3. 粃を育てるため田んぼに運ぶ
4. 田んぼで育てる&カバーをかける
5. ある程度育ったら運び出し、またしばらく育てる
6. 育ったら、田植えをする

農作業の手順②

等級別比較				
	1等米	2等米	3等米	規格外米
粒の大きさ	70%以上	60%以上	45%以上	30%以上
粒の長さ	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の幅	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の厚さ	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の重さ	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の形状	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の表面	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上
粒の内部	15%以上	15%以上	15%以上	15%以上

7. 雑草抜き（農薬は使わず、自然に優しい）
8. 稲刈り
9. 水分の調整→調整しないとコメが割れたりしてしまう
10. 脱穀
11. 品質検査（自分たちのお米は一等米）
12. 袋に詰める
13. 出荷

自分のWill

吉賀町の豊かな自然、綺麗な空気
吉賀町に来てから持病のぜんそくが治ったので興味を持った

自分の強み、自分がチームで果たした役割

自分の強み
インターネットやパソコンに詳しい

チームで果たした役割
インターネットを駆使して、若い世代に受けそうな方法を考えた

アントレの活動を通して学んだこと

農家の大変さや大変さ、農作業に対しての考えが変わりました。
つらいだけではなく、楽しいイベントもある。伝統も受け継がなければいけないので、農家の問題を解決したい。

アントレの活動で失敗したこと後悔したこと

SNSを活用するのが遅かった

アントレの活動で改善したこと

アントレをする前に
物事を一方向からしか見れなかった

アントレをした後
多方向から客観的に見れるようになった

アントレの活動を通じて、自分の成長したこと

客観的に物事を見れるようになりました、他にも協力して働くことの大切さを知りました。

アントレの活動でこれから深化させたいこと

若い世代の農家への理解を深めてもらうようにする
農家の高齢化や過疎化があるので、それを改善するために若い自分たちならではの目線で広めていく。

お世話になった方

- ・ 土井さん
- ・ タイガーモブ（株）鍵本さん
- ・ 平島さん、山田さん、木下さん

大変お世話になりました。米づくりに触れて、楽しさを知ることができてうれしかったです。ありがとうございました。

吉賀町盛り上げ隊

41班

友重 貴尋・石井 匠
松本 美咲季・伊藤 星竜

41班 ～吉賀町盛り上げ隊～

友重 貴尋 石井 匠
松本 美咲季 伊藤 星竜

町が静かで、笑顔が少ないという現状

町を盛り上げたい！

仮説

イベントを開催することで町が盛り上がり、笑顔であふれるのではないか？

・地域のイベントを企画している奇産会の方にお話を聞いた。

→ コロナで開催は難しい

ボランティア活動をすることで町が盛り上がるのでは？

ボランティア活動に力を入れている吉賀町社会福祉協議会の方にお話を聞きに行った。

- ・コロナにより高齢者の楽しみが減っている
→ ストレス、病気の原因に
- ・高齢者から見た孫にあたる存在の高校生
→ 触れ合えたら元気、「笑顔」につながるのでは？
- ・まずは高齢者を対象に活動したい。

今までに2回、高齢者が訪れるサロンに行った

テーマ：笑顔で家に帰ってもらいたい！

『巨大ジェンガ』をした。

一回目は、自分たちがお願いして行った。

二回目は、オファーがかかって行った。

→ 嬉しかった！

名前を教えてください！ (^o^)/



1回目



最高記録！バンザイ



腰が痛いのだ～

2回目



ドキドキ...



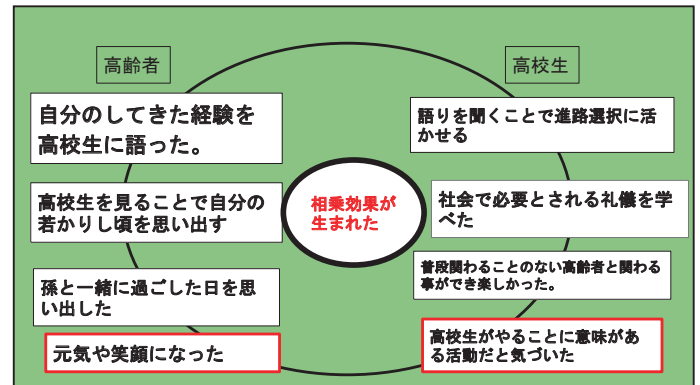
思い出が形として残るよ
うに手紙を一人ひとりに
渡しました！



レクや交流を通しての感想

- ・「ストレス解消になった」「また来て欲しい」「若返った気分になった」などたくさんの声が聞けて嬉しい！
- ・また行きたい！
- ・高齢者の喜びに繋がる！

高校生が主体となったこのような活動が、いろいろなところ「県」やサロンで行えば、笑顔が増えるのではないかと思います。



成果発表会を終えて

今回の活動を通して、これから社会に出ていく中で必要とされる知識や礼儀を学ぶ機会にもなりました。また、看護師や教員になるという夢に1歩近づいたと思います。

成果発表では、初めての1人での発表でなれないことが多かったのですが、準備をすることで良い発表ができました。

今後の後輩たちに「～吉賀町を盛り上げたい～」というテーマで引き継いで笑顔であふれる地域にしてほしいです。

～今の自分の行動は、未来の自分への貯金～ Byたくみ

～変えられるものは、未来と自分～ Byたかひろ

成果発表会を終えて

活動の中で、高齢者だけでなくいろんな人と関わるときに言葉づかい、表情、目線が大切だということ学びました。成果発表会は初めてでとても緊張しました。来年度はどんな形式で発表するか分かりませんが、今回「いいな！」と感じた人の発表を参考にして来年度も頑張りたいです。そして、活動は継続しようと思いますが少し変化させて活動したいです！

星電

高齢者と関わり、友達との接し方とは別の接し方だったので大変でした。ですが社会福祉協議会の方たちに高齢者とのコミュニケーションの取り方を教えてもらい、実践することができました。成果発表会は初めてでとても緊張しました。来年もこの活動を継続して、新しいことも取り入れ、いい方向に改善していきたいです！

美咲季

お世話になった方々

奇鹿会 : 中村さん

去年からお世話になりました。イベントを開催することができなく残念でしたが、ボランティア活動というアドバイスを頂いて実践することができました。ありがとうございました！

吉賀町社会福祉協議会 : 澄川さん

高齢者の方との活動を通して、高齢者の方の笑顔だけではなく、社会で必要とされる礼儀「目線、言葉の伝え方」など高校生自身の学びにもつながりました。ありがとうございました。

お世話になった方々

福岡市社会福祉協議会 : 塚本さん

自分たちのプロジェクトを賞賛していただいて自信ができました。「脳トレをしてみてもどうか？」など、具体的なアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

大学生 : 鈴木さん、福田さん

1年間を通して私たちと一緒にプロジェクトを進めてくださりありがとうございました。

地域をつなぐお米イベントプロジェクト

42班①

野村 耀蘭・谷上 ころろ・山本 佳奈

地域を繋ぐお米イベントプロジェクト

アントレ42班 米チーム

野村耀蘭 谷上ころろ 山本佳奈

「コミュニティを作りたい」①

出来ること

- ・話すことが好き
- ・コミュニティ作りの経験がある

「コミュニティを作りたい」②

やりたいこと

- ・人と関わりたい
- ・イベントを開きたい
- ・将来に役に立つことがしたい

ニーズはどこにあるの？

独居家庭が多い
コロナにより孤立

知名度を上げたい

吉賀町 + 米農家

実現するためには

理想とする未来

人と人が見守り合える環境になる
(安心できる環境)

吉賀町に魅力を感じる人が増える

吉賀町の米農業に興味を持つ人が増える

まずは吉賀に住んでいる人が一番
吉賀町について知るべきでは？

吉賀町の魅力をより理解して
もらえるイベントを開く

ACTION フィールドワーク

行政

柿木分庁
産業課 矢富さん

福祉

六日市公民館
向井さん

生産者

有機米生産者
土井さん

学生

メルカード東京農大

フィールドワークで分かったこと

- ・米の売れ残りは少ない
- ・米農家の高齢化、労働人口の減少
- ・吉賀の米のポテンシャルは高い
- ・吉賀町の農産業の問題を町民も知ってほしい



- ~~~~~
- ・計画が間に合っていない

中間発表の内容良かった点

- ・人同士の繋がりが無いのは確かに感じていたのでコミュニティを作ることに賛成
- ・目標がきちんと決まっているのがいい
- ・自分たちのプロジェクトを定期的に振り帰っているのがいい
- ・ニーズを組み合わせせていてすごい

中間発表内容 反省点

- ・誰のための持続可能なイベントなのか、質問に答えられなかったこと
- ・具体的な内容を発表に混ぜると良い

プロジェクト詳細の決定！ しかし・・・

1月15日、16日

吉賀町民対象

六日市公民館

会食、健康体操

高齢者、移住してきて間もない家族



イベントの延期

コロナ感染が増えた

準備が追いつかなかった

失敗・問題点

- ・確認不足により連絡ミス
- ・協力してくださる方への連絡が遅れた
- ・準備が間に合わなかった
- ・情報共有がされていない
- ・次々に手を伸ばしすぎている
- ・決定から実行までが短すぎた
- ・どこが一番重要なのかを見失っている

反省・課題

イベントを開くことでいっぱいになり

持続可能にする という課題を忘れてしまっていた

改善するために・・・

- | | |
|-------------|----------|
| 目的と目標の再確認 | 役割分担 |
| 活動前後の進捗確認 | ・情報共有 |
| 自分たちで締切をきめる | 優先順位を決めた |

お世話になった方々

- ・メルカード東京農大 さん
- ・サジキアグリサービス さん
- ・土井さん
- ・六日市公民館 向井さん
- ・吉賀町役場 矢富さん
- ・大学生 井上さん、中村さん、東山さん

協力してくださり、ありがとうございました。

コウヤマキからスプーンを作る

42班②

泉 友梨香・清水 彩香・増本 渚

コウヤマキからスプーンを作る

[4 2班-2]

2年 泉友梨香 1年 清水彩香 増本渚

仮説&きっかけ

吉賀の自然をざっくりとしか知らない



吉賀町の自然の1つに注目してものづくり



1つでも多くの吉賀町の資源知ってもらえる機会を作る



吉賀にしかない自然について知ってもらえる

現状

そもそも私たちが町の自然について あまり知らない！！

フィールドワーク

- 田村正人さん…木の性質や扱い方
- 河野成祥さん…藁人形や毛皮
- コウヤマキギャラリー…吉賀町の象徴
コウヤマキの特徴

プロジェクト内容

コウヤマキからスプーンを作る

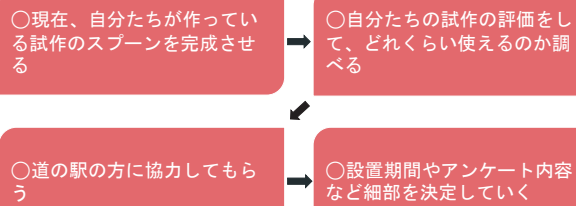
Qなぜスプーンにしたのか？

- ⇒金属のぶつかり合う音が苦手な人でも使用でき、使う場面が多いから。
- ⇒木は熱を伝えにくいので、熱いものを食べる時に便利だから。

そのために実践したこと

- ①地域の方から無償でコウヤマキをいただく
- ②サイズや木の特徴を調べて何が作れるのかを考える
- ③どういう工程で作るのか田村正人さんにお聞きする
- ④いただいた木を板状にする(家具職人の浅尾さん宅)
- ⑤実際にスプーンづくり！！

これからの課題



これからの方針

田村正人さんに協力していただき、スプーンを完成させる

吉賀町の道の駅に配置して無料提供&アンケート

吉賀町の資源を町民や町外の方々に知ってもらえる

～アントレを通しての感想～

学び&成長		今後取り組みたいこと
自分主体ではなく地域主体でアントレを行うことができた	泉 友梨香	自分の身近な場面でも課題解決を意識して過ごす
人と深い関わりをもてるようになった	清水 彩香	計画性をもって物事に取り組む
自分事として物事を捉えられるようになった	増本 渚	自分の好きなことをプロジェクトにして取り組む

地域でお世話になった人へ パート①

- ・田村 正人さん(柿木)
道具を貸してくれたり、ものづくりについて教えて下さりありがとうございました。木の知識がほとんどない状態からのスタートだったので心強かったです。
- ・河野 成祥さん(柿木)
生徒だけの訪問でしたが緊張していた私達に優しく説明をしてくださり、ありがとうございました。

地域でお世話になった人へ パート②

- ・コウヤマキギヤラリー
学校に訪問していただきありがとうございました。たくさんのお話を聞けてよかったです。木の提供もしていただきありがとうございます。
- ・浅尾さん(家具職人)
突然した依頼にも臨機応変に対応してくださったおかげでプロジェクトを進めることができました。ありがとうございました！

お世話になった人へ パート③

- ・阿部さん(東京農大発株式会社メルカード)
専門外のことにもしっかりと答えくださりありがとうございました。別の視点からプロジェクトを見ることを学びました。
- ・井上さん、中村さん、東山さん(大学生)
1年間、私たちと一緒にアントレに取り組んでくれてありがとうございます。いつも否定せず「それいいじゃん!」とくださるのでなんとか進めることができました。



動物と人間の共生

51班

潮 歩果・河村 海音
河村 海香・黒田 凜

動物と人間の共生

51班

潮 歩果・河村 海音・河村 海香・黒田 凜

プロジェクト内容

野生動物と人間の
共生を実現



パンフレットを作成し配布することで
色々な人に野生動物のことを理解してもらう

仮説

野生動物への
理解の不足

野生動物の知識
を深め広げる

野生動物と人間
の共生を実現で
きる



きっかけ

動物が好き

動物のことをもっと
知りたい

動物のことを助けたい

動物のことをもっと知っ
てもらいたい



そのために実践したこと

吉賀町の野生動物に
詳しい方に話を聞く

県外で野生動物と人
間の共生を実現する
ための活動をしてい
る方の話を聞く

町内フィールドワーク

[金澤さん(産業課の方)]

○わかったこと

- ・吉賀町には色々な動物がいる
 - ・私たちにもできることがある
- ex)柿をとる

網・わな猟免許の取得



[木村さん(家)]

○わかったこと

- ・柿を全て収穫するのはとても大変
- ・柿を収穫することで所有者の方の負担が減る



オンラインフィールドワーク

【野生生物共生センターの方】 (in 福島県大玉村)

O分かったこと・アドバイス

- ・動物にとって人間に飼われることが幸せなことではない
- ・パンフレットのイラストを多くする
- ・色々な視点から考える



野生生物共生センターで行われていること

剥製の展示

野生動物の救護/野生復帰・観察

イベントの実施



チームの変化や気づき

変化

- ・動物主体→動物と人間の共生
- ・子供や高齢者→10代や20代

気づき

- ・動物を助けることに批判もある
- ・SNSの活用
- ・年齢に合ったパンフレットの作成



潮歩果

私がこの1年間のアントレを通じて学んだことは、質問をするときや人と話すことです。私は人見知りで質問や人と話すことが出来なかったけど、友達がいたので少しは質問や人に話せるようになりました。

成長したことは、以前は恥ずかしかったけど、今は友達がいるし恥ずかしがらずに言いたいと思ったので少しは恥ずかしがらずに言えるようになりました。

今後取り組みたいと思っていることは、パンフレットを作成していきたいなと思っています。

河村海音

私がアントレの活動を通して学んだことは、野生動物を助けることに批判的な意見もあることや外来種は助けることができないということ、世代にあったパンフレットを作成することでより多くの人に見てもらえるということです。

成長した部分は自分から話しかけるといったコミュニケーション能力の向上と賛成意見と反対意見どちらの意見も尊重する考え方に変わったことです。

今後の活動で取り組みたいことは、フィールドワークで学んだことを活かしてパンフレットを完成させて色々なところに配布したくさんの人に野生動物に対する理解を深めてもらうことです。

河村海香

私はこの1年間のアントレを通じて物事を広い視野でみることの大切さを学びました。私はこの活動を始める前までは動物が殺処分されて可哀想、動物だけを助けたいと思っていました。ですが、FWなどを通して動物を助けるためにはまず私たち人間が環境を整えていく必要があるということを知りました。

そして活動を通じて成長した部分は、文章を考えるということです。今までは文章を考えたり書くことが苦手でした。しかし、アントレの中で原稿を作成したりしていくうちに自分の中で苦手意識が少なくなっていきました。

今後は、パンフレットを完成させて、様々な人に配布したいと思います。

黒田凜

私がこの1年間でアントレを通して学んだことは広い視野です。当初、私はクマやイノシシなどの動物に対してただ危ないだけだという先入観を持っていましたが、町内で野生動物に詳しい方に話を聞き、なぜ昔に比べて今はクマが来るようになったのか、クマなどの動物もなくてはならない存在だということを知り、広い視野で見ることの重要性を学ぶことができました。今後はFWで頂いた情報をまとめたパンフレットを作成していきたいです。

柿木役場産業課の金澤さん

木村さん(柿の所有者さん)

野生生物共生センターの皆様

大学生 田島さん 吉田さん

私たちのために時間を割いて頂きありがとうございました。
教えて頂いたことを今後の活動に活かしていきたいと思っています。

また機会がございましたらよろしくお願い致します。

中庭にベンチを置こう

52班

成本 千騎・浅尾 蒼馬
房崎 凌音・松谷 春輝

アントレ成果発表 52チーム

<メンバー>

・成本 千騎・浅尾 蒼馬
・房崎 凌音・松谷 春輝

テーマ：学校を心地よい場所にする

52・53班合同プロジェクト 『中庭にベンチを置こう！』

① 高校生活を送る中で、学校に
「何もない」「殺風景だ」と感じていた。

↳特に中庭が活かせていない。

② 皆が昼食を、外で座って食べていた。

↳外に憩いの場が必要なのでは？

仮説：中庭にベンチを置いて、憩いの場をつくれれば
学校生活が充実するのでは？

生徒のニーズ

生徒全体へのアンケートによると...

→ 生徒の過半数が、**学校が魅力的でない**と答えた
(内装、中庭などに不満)

PJの目的と目指す未来

・生徒がもっと楽しく過ごせる学校にする

↳**生徒のモチベーションを上げる**

・みんなが「前より過ごしやすくなったな」と感じる学校をつくる

行ってきた活動

- 1、ベンチの材料探し（旧寮の廃材を利用）
- 2、中庭での材料の組み立て
- 3、奇鹿神社から木を譲っていただいた
- 4、大学生とのフィールドワーク（景観アドバイザー）
- 5、家具職人・浅尾さんにアドバイスを頂いた

浅尾さんの家に行って学んだこと

①木の乾燥に1年かかる

↳乾燥を待たないと木が反る&割れる

②最初の設計やデザインが大切

見通しを持って行動できる

↳作業効率があがる

景観アドバイザーの方から学んだこと

①持続的に利用できることが大切

↳愛着を持ってもらう

②ただ集まるだけでなく、

各々にあったスタイルで過ごせる

ことも大切



今後の予定

①ベンチ・中庭の設計をする。

↓

②機材を借りる

↓

③素材を集める、奇鹿神社で貰った木を使う

↓

④実際に作ってみる

活動の振り返り

1年 浅尾蒼馬

一年間アントレの活動を続けてきて、人に意見いえるようになりました。二つ目は責任感がつき任せられた仕事をちゃんとできるようになりました。次のアントレは自分からすすんでしたいです。

1年 松谷春輝

一年間のアントレを通じて、プロジェクトに対しての話し合いの中で、意見を言うことができるようになりました。最初はあまりできませんでしたが少しずつ慣れることができました。これからは実際にベンチを作って、設置しプロジェクトのゴールまで行きたいです。

活動の振り返り

1年 房崎凌音

アントレを1年間して身についた力は、主にメモを取る仕事をしたので人の話を聞く力が付きました。浅尾さんに話を聞くときに、短くわかりやすいようにまとめるように心がけました。次も頑張りたいです。

2年 成本千騎

アントレの活動が始まったころは、怠けてしまうことが多く、積極的に動けませんでした。しかし、困っている一年生メンバーを見るうちに「二年生の自分がしっかりしなきゃ」と思うようになり、自分からアクションを起こすことができるようになりました。今後は、ベンチ作りをスタートしていきたいです。

お世話になった方々

・家具職人の浅尾 明広さん

お忙しい中、わざわざ学校まで来ていただきありがとうございます。浅尾さんの助言のおかげで、ベンチづくりの一步を踏み出すことができました。

・景観アドバイザーの宇田川 幸浩さん

専門的なご意見ありがとうございます。今までにない発想も生まれ、

・景観アドバイザーの坪倉 薬水さん

私たちでは思いつかない問題点や必要なことを教えてくださりありがとうございます。

・奇鹿神社の神主 渡邊 守廣さん

神社の木を譲ってくださいありがとうございます。今後の活動に使わせていただきます。

・青山学院大学 3年 大塚 花夏さん

いつもグダグダになっていた私たちでしたがサポートしてくださりありがとうございます。

・青山学院大学 3年 小川 影音さん

いつもまとまりがなく迷惑をかけてしまいましたが最後まで支えてくださりありがとうございます。

・青山学院大学 3年 米岡 花さん

なかなか発言ができず戸惑わせてしまったこともあったと思いますが、1年間ありがとうございます。

・三浦 もづるさん

写真撮影に協力させていただきありがとうございます。とても貴重な経験となりました。

私たちが「理想の学校」にしよう

53班

内田 優希・三宅 真
蓑方 亨志朗・小田 聖弘

私たちが、
「理想の学校」
にしよう。

2年 内田優希 三宅真
1年 蓑方亨志朗 小田聖弘



53班プロジェクト

私たちのプロジェクト

□ 動機

⇒学校に何か魅力的なものが欲しかった、何か憩いの場となる場所が欲しかった。

□ 現状の把握

⇒広い面積を有している中庭が特に使われていない。

□ プロジェクト

⇒全校に調査をおこない、何がなかを把握する。



プロジェクトのプロット

- 1) アンケートを全校へ実施。
⇒全校の意思を把握するため
- 1) アンケート結果から必要な人員・道具の調達。
2) 学校への許可取り。
⇒大きなものの場合、県の許可が必要となる
- 1) 加工に携わる方への委託。
2) 設計図作り。
3) 地域の方との共同製作。



求める理想像

□ 中庭

特に使っていなかった中庭を効率的に活用でき、「生徒の活動範囲をより広げる」ことができる。

□ 生徒

休み時間や昼食の時間、教室内だけにとどまることなく「自然に触れながら活動」できる。

□ 学校

来校して下さった方に、より「印象」に残る学校にする。

プロジェクトの過程

□ アンケートの実施

⇒全校生徒が回答済み。

□ 携わる方への確認

⇒主に家具を作成している浅尾さんに連絡し、工房への見学をおこなった。道具の調達や材料の加工は浅尾さんから承諾を頂いた。

□ 材料の調達

⇒旧寮にある木材（椅子、机、ベッドなど）、（仮）神社の方がイチョウを切り落とした際に出た木材。

□ 学校への許可取り

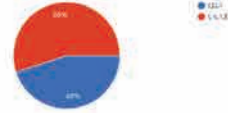
⇒ベンチ程度のものであれば、問題ないとのこと。しかし、台風や大雨で学校に影響を与えないように固定する必要があるかもしれない。

□ 設計

⇒オリジナリティのある設計。鋭意思案中。現時点では、椅子のパイプと机の天板を使ったベンチの設計を構想している。

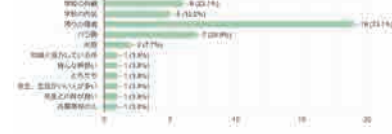
①本校は他校と比べ、魅力的だと思えますか。

魅力を感じる



②上で「はい」と回答した場合のみ、具体的にどうしてですか。また、魅力を感じていない理由も教えてください。

魅力を感じる



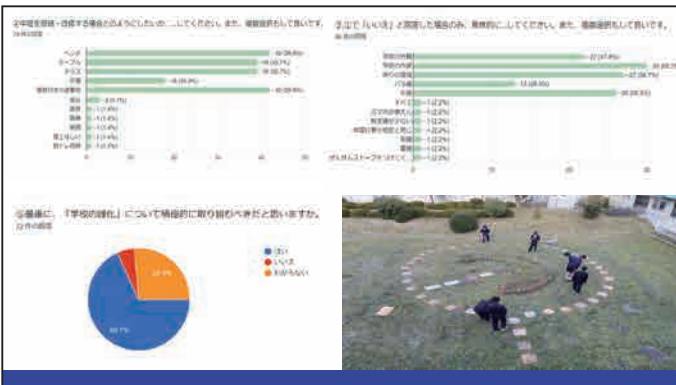
フィールドワークのまとめ

○フィールドワーク先

島根県 土木部都市計画課景観グループ 宇田川孝浩 (うだがわたかひろ) さん
坪倉菜水 (つぼくらなみ) さん

○得たもの

- ひとつのことだけに目を傾けるのではなく、**広く自由に視野を広げる**ことでより良いものへと近づける。
- 敢えて完成させたものを置かず、少しずつ手を加えていくことで**オリジナリティの溢れるもの**へと昇華できる。



デザインについて

○フィールドワークから

- 様々なニーズに対応できる設計が必要。
(例) 小さな椅子を作り、アダプターとなるもので延長し、単体のものや数人が座れるベンチを作る。
- ベンチの耐久性。
⇒廃材などを活用するため、十分な耐久性は見込めない。そのため、あらかじめ **部品を交換しやすい設計**にして、長く使えるようにする。

コメント

・小田 聖弘

一年間を通して学んだこと、感じたことは、みんなと協働して作業を行うことです。チームで話し合って作業を進めたり、活動をしたりしました。これからもみんなで協働して作業を進めていきたいです。

・藪方 亨志明

今回のアントレで先輩方と話し合って、目標を決め、その目標に向け頑張ってきました。これからは、ベンチを製作して、生徒が使いやすい環境にしたいです。

・三宅 真

今回のアントレは他の班と比べ人数が多く、一見案に見えるのですが、その反面まとめるのが大変でした。しかし、こういった背景からひとをまとめる大切さと周りのモチベーション次第で行動の幅が広がることを知りました。

・内田 優希

今回のアントレを通して身についたことは、1度、訪問先への電話が遅れたため、次にしないといけないことを計画して行動できるようになった事です。アントレが終わるまでには、ベンチを完成させたいです。

感謝の言葉

・浅尾さん、宇田川さん、坪倉さん、島山さん、松本さん

私たちに様々な専門的指摘、アドバイス等をしていただき、大変感謝しています。また、自分たちのプロジェクトに積極的に支持して下さったうえ、これからの具体的な案などをくださったことにも感謝しています。まだこのプロジェクト自体終わってはいないのですが、最後に形として残したいと思っています。今回はほんとうにありがとうございました。

53班一同より

放置されている柿を使って 獣害対策をしよう

54班

空内 恵里・三原 レイナ・河野 歩羅

放置された柿を使って 獣害対策をしよう！

54班

空内恵里、三原レイナ、河野歩羅

FW1 永安しょうこさん家訪問 (草木染について) 10/20

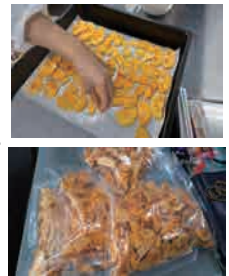


しょうこさんのお話を聞いてわかったこと 

- ・柿でも染め物できる。
→青柿の6・7月がベスト
- ・色々な染め方がある。
- ・2種類の葉でもできる。
- ・布にタンパク質を入れると染めやすくなる。
- ・あいの葉は殺菌作用あり。

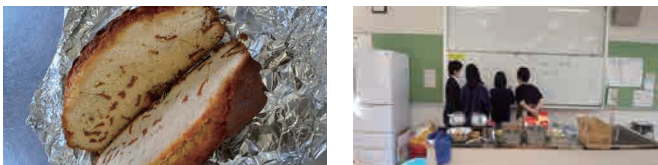
FW2 柿を取って一次加工 11/1

- ①地元の方に、柿（甘柿）を
沢山探らせていただいた。
- ②加工場で、柿を小さく切った。
- ③切った柿を乾燥機にかけて、
ドライ状態にした。



FW3 柿パウンドケーキ作り 11/17

吉賀町産業課 早田みどりさんに来ていただいた。
教えていただきながら楽しくつくれた。



発見・学び 

●素材に注目する事が大事。

バニラビーンズ

アーモンドプードル

吉賀町の米粉 など...

→ 吉賀町感
他とは違うものができる。

～アンケート結果～

食べてみた感想

美味しかった 56%

ドライフルーツの甘酸っぱさがよい 8%

程よい甘さ 8%

少しバサバサ

食べやすいサイズ

ドライフルーツ好きにはぴったり 珍しい など...4%

改善点

柿の感じがもっとほしい 28%

特になし 24%

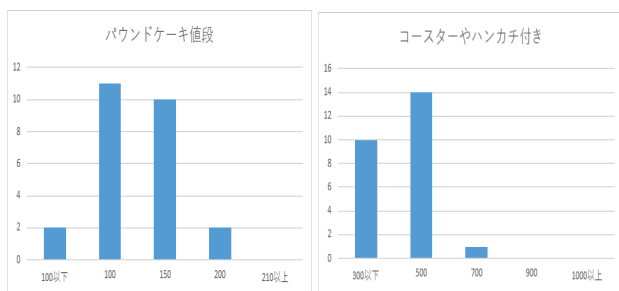
柿の量をもっと増やしてもいい 12%

もう少し大きいサイズがよい

中に入っているのが柿と分かる工夫

柿の実を大きくする 水分がもう少し欲しい など...4%

買うならどれくらいの値段??



今後の予定



商品完成



3月に東京であるイベントで販売

「柿を商品化して売る」

↓
その商品で売り上げた利益

電気柵や檻の購入

にあてよう!!

佃煮

イノシシの肉+柿



→ 佃煮の瓶詰



酸味必要→ゆず

成長・学び

空内恵里

いろんな人と出会うことで、新たな発見やいろんな視点から改めて物事を見ることが出来る。そして、出会いの中で、自分を客観的に見て真剣に向き合ってくれる人に出会うことで自分が変わるきっかけになることを感じた。人との出会いは人生を豊かにするにあたってとても価値があると分かった。知識があればあるほどいい。知識があると掘り下げた話ができるようになり、自分が教ってあげられる人の幅が広がる。

三原レイナ

一つのきっかけから、どのように工夫して活かしていけば良いのかがわかった。また、与えられた課題や任された仕事をどのように効率よく仕上げれば良いのかを学べた。

河野歩羅

自分の考えは思っているだけでは伝わらない。どう言語化して相手に興味を持たせるか、また、そのための行動力も必要になる。一方で、要所要所で立ち止まり、自分たちが今、どの位置にいるのか確認することの大切さも忘れてはならない。

お世話になった方々

- ・産業課 早田みどりさん
- ・草木染め 永安しょうこさん
- ・株式会社戸田屋 長野県飯田市
第三営業部 今村好宏さん
- ・オンライン 青山学院大学 碓井咲さん

工藤真央さん



動画で平栃の滝をPR!

61班

田淵 洪憲・古泓 龍希・北川 颯良

61班 動画で平栃の滝をPR!

田淵洪憲・古泓龍希・北川颯良

ニーズ

- ・吉賀町の観光地が知られていない
- ・吉賀町の観光地が衰退していくのでは？
- ・観光地を紹介する動画があったほうがよいのでは？

61班のプロジェクトは…

動画で 平栃の滝をPR!



内容

1. 平栃の滝を撮影→動画化
2. 吉賀町の観光協会のホームページ
吉賀高校のInstagramアカウントに上げる

きっかけ

観光地の知名度が低い・魅力がわからない



観光場所や魅力を動画でPR!

仮説

現状

観光地の知名度が低い・魅力がわからない

自分たちの行動

インターネットなどで観光場所をPR

その後の展開

観光場所や魅力を知ってもらえる状態になる

町内FW

1. 観光協会の斎藤さんに観光地について
2. 平栃の滝で永安さんに平栃の滝の魅力・課題・歴史について

オンラインFW

- ・明星大学 田原教授に対してプレゼン
- ・教授からのアドバイス



アドバイス

1. 動画を作る際にストーリー性、伝説がほしい
2. 他の観光地、食事などを動画に入れると吉賀町の宣伝になる
3. 滝の高さが分かるような撮り方をする→現実性としては不可
4. 誰に届けたいのかターゲットを絞る→吉賀町民から隣の県へ

FWを通しての気づき・発見

滝を示す看板が
小さくよく見えない



場所がわかりにくい

滝に行く道が険しい



中学生以上が行くところ

アクション

- ・取材（永安さん・斎藤さん）
- ・現地調査
- ・滝の撮影
- ・動画編集（途中）

動画の流れ

1. 場所を示すため地図の画像や動画の挿入
2. 滝の説明
3. 滝の映像
4. 滝に詳しい永安さんのインタビュー

質問内容

- ・アクセス
- ・滝の説明
- ・滝の伝説
- ・水がどんなことに使われているか

今後の予定

- ・滝に詳しい人(永安さん)へのインタビュー
- ・動画を見てほしい人のターゲット層を絞る

個人の変化

- ・外部の人の意見を取り入れることによって、視野が広がった
- ・地域の課題に直面し、課題解決に向けて努力の大切さを痛感した
- ・自分自身の課題にも積極的に取り組むようになった
- ・自信を持てるようになった

お世話になった方々

青山学院大学 岩瀬 貴寛 様
明星大学 田原 洋樹 様
吉賀町立図書館館長 永安 恵治 様
吉賀町観光協会 斎藤 由美子 様

大変お世話になりました。これからも
アントレの活動を頑張っていきます。

外国の食文化を給食を通して 小中学生に伝えていく

71班

下野 未来・武岡 果音・小田 裕一朗
仲野 咲弥・河内 花穂

外国の食文化を給食を通して 小中学生に伝えていく

下野 未来・武岡 果音・
小田 裕一朗・仲野 咲弥・河内 花穂

日本の現状

日本に住む
外国人の人数が
増加している

お互いが
住みやすい環境を
作る必要がある

吉賀町に住む外国人
割合：3.5%
人数：約210人

多文化について理解し、距離を縮めることがお互いが住みやすい環境を作る一歩だと思う

プロジェクトのきっかけ・仮説

私たちが外国の食文化についてあまり知らない

自分たちがお話を聞き、学んだことを小中学生に給食を通して伝えていく

少しでも外国人との距離が縮まる方法が作れる

プロジェクト内容

吉賀町の学校給食で外国の伝統的な料理を給食風にアレンジし、児童や生徒、教職員に食べてもらう

→吉賀町の給食献立を考えている吉賀町の栄養教諭の方とともに給食を考えていきたいと思っている

プロジェクトを達成するために

去年このようなプロジェクトをした三年生はアジア系についてしていた

そこで吉賀町在住のペルー人のアレックスさんにお話を聞きたいと思った

私たちはアジア系ではない南米ペルーにすることに決めた！！

アレックスさんに質問した

Q.ペルーの伝統料理は何か？



ロモ・サルタード
牛肉と野菜の炒め物

tabicoffret.com



セピチェ
魚介類のマリネ

sbfoods.co.jp



ソバ・ミヌータ
細切れ野菜のスープ

cookpad.com



チチャモラーダ
紫とうもろこしのジュース

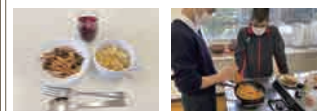
perunews.jp

アレックスさんについて

11月10日にアレックスさんと一緒にロモ・サルタード、ソバ・ミヌータ、チチャモラーダを作ってみることにした



→作ってみて給食ではロモ・サルタードとソバ・ミヌータがだせそうだなと思った



オンラインFW

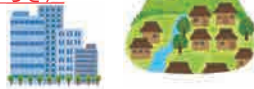
神奈川県地球市民かながわプラザ（あーすぶらざ）

<気づき、発見>

- ・ 神奈川も高齢化が進んでいる
→ 田舎と都会でも同じ部分はある！

<アドバイス>

- ・ 小中学生に伝えるときに分かりやすくふりがななどふると◎



私たちのプロジェクトに賛同してくださった！！

教育委員会の藤本さんとお話をしてみて

- ・ 給食だよりも少しだけ記事を書かせていただく
- ・ 前年はZoomで各学校を繋いだが、今年度は資料とポスターのようなものを作り各学校に配布させてもらう
- ・ 実施日を相談した
- ・ 校長会に参加させてもらい自分たちのプロジェクトについてプレゼンをする



校長会・献立会に参加させてもらって

校長会

- ・ アレックスさんの気持ちや情報も伝えてほしい
- ・ アレックスさんのQ&Aも検討してほしい
- ・ もっと自分たちの情熱を伝えてほしい



期待している、楽しみ！！

献立会

- ・ すでに栄養士さんたちが分量などを決めてくださっていた
- ・ 給食風のアレンジまで完成しててありがたかった



2月1日に給食を提供することが決定！

実際に給食を提供してみよう

・ 2月1日の七日市小学校での給食



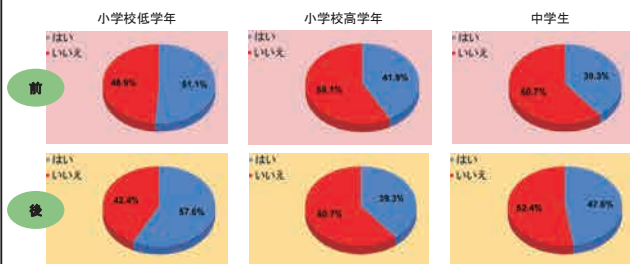
献立

- ・ ロモ・サルタード
- ・ ソバ・ミヌータ
- ・ さっぱりサラダ
- ・ バナナ
- ・ 牛乳

「おいしかった」
「足りなかった」
「いつもよりも残飯が少なかった」
など言ってくれた！

アンケートの結果

給食を食べる前と後に外国に興味の変化があったか



各自成長したこと

物事を自分事として捉えること

情熱を持ちプロジェクトを進めること

当事者意識

計画を立てる習慣がついたこと

積極的に話せるようになったこと

今後取り組みたいと思っていること

- ・ もっと多くの人に外国に興味を持ってもらえるようなことを考える
- ・ 外国の方が今よりも住みやすくなるために自分たちができていることを考え続ける



外国の方との関わり続け、課題を見つけ改善していく

お世話になった方々

- ・ ベルー人のアレックスさん
- ・ 大学生（立花百花さん、水木那々子さん）
- ・ 教育委員会の藤本さん
- ・ 神奈川県地球市民かながわプラザの柳下さん
- ・ 吉賀町内の小中学校の児童、生徒、教職員の方々
- ・ 吉賀町の栄養教諭の方
- ・ 七日市小学校
- ・ 吉賀町の学校調理員さん

プロジェクトに賛同してくださりありがとうございました！

多文化共生 ～住みやすい吉賀町へ～

72班

永田 こずえ・山田 光琉・伊藤 優希
野村 あずさ・中村 歩夢

多文化共生 ～住みやすい吉賀町へ～

永田こずえ 山田光琉 伊藤優希 野村あずさ 中村歩夢

現状



島根県の中で
吉賀町が一番外
国人の割合が
高い。



外国の方と
関わる機会が
あまりない。

仮説・きっかけ



コロナ禍で外国の方と関わる機会が少ない



私たちが外国の方と交流する



外国の方と繋がることできる

いままでのプロジェクト内容

吉賀町のALTのケビン・ローヨ
ーさんと七日市小学校の児童と一
緒にアメリカの遊びをする

→自分たちで遊びを決め、**ケビンさん**
と小学生と私たちと一緒に遊んでい
きたい



オンラインフィールドワーク

⇒異文化間協働活動支援員の島津さんと神代さんに意見を
いただく

[もらった意見・アドバイス]

○吉賀町内の交流が目的なら働きかけるべき層を考え直す
→中国人など

○自分たちの視点でしか課題について考えていなかった
=町全体の視点から考える！

○多文化共生について理解を深める=『遊び』ではない

○失敗を恐れず、素直にアントレに取り組む

新プロジェクト始動！！！！

調査
近隣にお住い
の中国人の
方々に不便な
ことを伺う。

結果
買い物する
ときに中国語表
記が欲しい！



中国語表記の案内板を作ろう！

新プロジェクト



中国語表記の
ものを考える。



考えたものをキ
ヌヤに提案する。



だしの素⇒第一个

新プロジェクト



ポン酢⇒

日本語から中国語にしてみると...



カレー⇒咖喱



ケチャップ⇒番茄酱



個人の振り返り

成長したこと		今後取り組みたいこと
当事者意識を持ち、自分なりのアントレを行うことができた。	永田こずえ	これからの生活の中で、何事にも当事者意識を持ちたい。
視野を広げて物事を見ることができるようになった。	伊藤優希	中国語表記の店の伝染。
プロジェクトを自分事と捉えてチームに貢献ができた。	山田光琉	今回のアントレで学んだことを学校生活でも生かしていきたい。
意見をしっかりと発言できた。	中村歩夢	この多文化共生で計画した中国語表記を作り終えたい。
人前で話すことに慣れたり活動に積極性や主体性を持つたりすることができた。	野村あずさ	何事にも積極的に活動していきたい。人前で話すことの苦手意識をさらになくせるように頑張りたい。

地域の中でお世話になった人たち

ケビン・ローヨーさん

アメリカの遊びをいくつか教えていただきました。プロジェクトを行うことはできませんでしたが、アメリカの文化に触れる貴重な体験になりました。ありがとうございました。

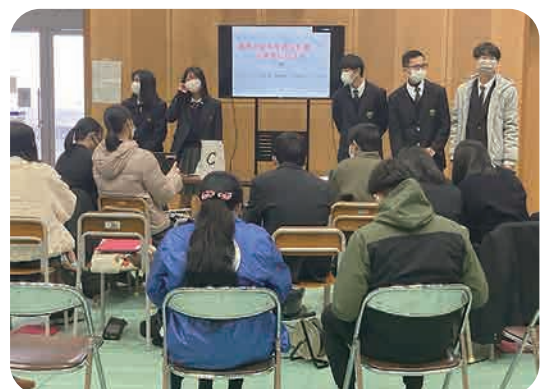
島津美貴子さん、神代貢志さん

アントレのプロジェクトを客観的に見てアドバイスをいただきました。プロジェクトを見直す良い機会となりました。ありがとうございました。

ヨシワ工業で働いている中国人の方々

吉賀町で生活していて、困っていることを伺いました。新プロジェクトをおこなうきっかけとなりました。ありがとうございました。

井上立揮さん、五十嵐秋徳さん



高齢者を笑顔にしよう

81班

藤村 唯花・水村 美憂
向井 優菜・坂崎 愛美香

1年間の振り返り

81班 藤村唯花 水村美憂 向井優菜 坂崎愛美香

～高齢者を笑顔にしようプロジェクト～

仮説

現状が「コロナ禍で制限ばかりの生活」だから、
自分たちが「イベントの企画や贈り物」をすることで
「高齢者や施設の方が笑顔で生活できる」という状態
が作れるのではないか？

きっかけ

高齢者の方と関わる
機会が減った！



ニーズ

高齢者と関わる
機会を増やす



11月16日

七日市デイサービスでイベント

利用者さんと交流中



利用者さんの作品



良かったこと

- ①利用者さん達が楽しんでいただけた
- ②職員さんと協力できた



反省すべきところ

- ・見通しが甘かった
- ・UVレジンの見本がなかった
- ・高齢者の方がわかりにくいカタカナ語が多かった
- ・高校生や職員さんが誰もおらず、高齢者の方々がぼーっと座っているテーブルがあった



活動を通して

<個人の変化>

- ・自分ごととして取り組めるようになった
- ・相手にどう聞かれるかを予想して先の見通しを持てるようになった
- ・様々な年代の方と話せるようになった



<大学生と関わる中での変化>

自分の意見が言えるようになった！



<一年間を通しての自分自身の成長と学び>

- ・今年の活動で計画実行力とコミュニケーション能力を身につけることができた
- ・アントレの活動をする上で自分から人と話したりするなどの積極性を身につけた
- ・地域の方と関わっていく中で相手の気持ちを考えることができた
- ・イベントの中で次起こる出来事を予測してどう対処するのかを考えるようになった

<今後取り組みたいこと>

地域の人と関わる！！！！

<町内でお世話になった方々>

社会福祉協議会 七日市デイサービス
・澄川さん 榎本さん
・石井さん

<オンラインフィールドワーク等でお世話になった方>

- ・寺田さん
- ・柴崎さん、吉田さん

ご協力いただきありがとうございました！！

買い物代行プロジェクト

82班

向井 陽菜・井上 愛梨・吉本 拓人

報告集

82チーム

～買い物代行プロジェクト～

メンバー:向井陽菜 井上愛梨 吉本拓人

買い物代行にした目的と地域の現状①

・移動が困難な方や、コロナの関係で買い物に行きにくくなったのではないかなと思って買い物代行にし、年齢層を全てにしておくが大変なので、高齢者や妊婦さんなどに絞りました

☞現状：

実際、吉賀町の一部の地区はそんなに買い物に困っていない
買い物は自分の息子などが言ってくれたり移動はバスがある

買い物代行にした目的と地域の現状②

☞しかし...：実際社協の方が言うには、その地域以外に買い物代行が必要としている方はいました

予想されること：

買い物代行を必要としている所は、近くに買い物できる場所がない、または息子などが違う地域、県などに行ってしまう場合というような現状の高齢者施設の高齢者や、自宅にいる高齢者が困っているかもしれない

プロジェクトの仮説

現状が店までの道のりが遠く**高齢者の移動が困難**だと感じたから、
自分たちが代わりに買い物をして商品を届けたら、
高齢者が買い物や移動に困らない未来が作れるのではないかな？

町内フィールドワーク①～吉賀町社会福祉協議会編～

行ったところ：吉賀町社会福祉協議会

誰に聞いたのか:齋藤さん

FWでの気づき:・視野を広くもつことが大切であるということ

→高齢者だけでなく妊婦さんや子育て中の人も困っている

・買い物代行だけでなく日常生活のなかで困っていることの手助けをすることを買い物代行をする際にするのもいいのではないか

アドバイス：・タブレットを用いることで買い物代行の利用者が実際に買い物をしている気分になれるのではないか

・吉賀町の現状を把握するためにもNeeds調査を行うことが必要である

町内フィールドワーク②～七日市デイサービス編～

行った場所：七日市デイサービス

誰に聞いたのか:利用者さん、榎本さん

FWでの気づき:・一緒に住んでいる家族に必要なものを買いに行ってもらっている

・コープなどの宅配サービスなどを利用している

・買い物代行ではなく、犬の散歩や話し相手になって欲しいというNeeds

→七日市デイサービスの利用者さんにはNeedsがない

・高齢者の方々と相手にするFWは事前の準備をより時間をかけて行うことが必要

→利用者さんの中には、耳が聞こえずらい方や目の見えにくい方がいらっしゃるため

アドバイス:限られた時間の中で聞き出したいことを得るためには事前の準備が必要

→アンケートなどの作成、事前の打ちあわせ

オンラインフィールドワーク～群馬県高崎市社会福祉協議会～

行ったところ：群馬県高崎市社会福祉協議会

誰に聞いたのか:平吹さん、田村さん

FWでの気づき:・買い物代行を始める前にルール作りが必要

→買い物代行の利用者さんや自分たち自身を守るため

・本当に困っている高齢者さんにサービスを提供したい

アドバイス：・継続可能なことなのかきちんと考える

・買い物代金の支払いは現金に限定する

→金銭トラブルを防ぐため

・会話のできる高齢者さんを対象にしたほうがいいのではないかな

オンラインフィールドワーク ～群馬県高崎市社会福祉協議会～

- アドバイス：・継続可能なことかを考える
- ・買い物代金を現金に限定する
 - ・会話がスムーズにできる利用者さんに限定する

プロジェクトへの気づき・変化

4月～12月まで

- ・対象者が高齢者や外出できない方へのプロジェクトなのでFWなどをすることでより吉賀町での課題を探り、その自分たちが思う課題に向けて活動していこうという気持ち
- ・アントレの本質としてその流れをこなすのにどのくらい時間がかかるか、どのくらい調べないといけないのかなど社会にでて活動をするということのむずかしさに気づいた
- ・実際やりたいことがあってそれに向けてしようとしてもその場所・地域・県の許可などがなくて簡単にはできないということ

今後の予定

方針

- ①：『買い物代行支援』をするために決めておかないといけないルールなどを決めておく→1月
 - ☞金銭面でのトラブル回避や対象者など
- ②：社協からきている買い物に困っている高齢者の方を『買い物代行支援』を行ってみる→1月
 - ☞行って見た結果、どこがよくてどこがわるかったかをまとめ、引き続き七日市地区以外のところで買い物代行支援があるかどうか調査する
- ③：成果発表まで時間があるならば①の続きを行う
 - ☞時間がない場合成果発表に向けてのスライドなど資料を作成、整理しておく

振り返り 向井陽菜

成長したところ :振り返りを活かせるようになった
相手の気持ちをよく考えられるようになった
今後取り組みたいこと :高齢者の生活の中で困っていることを調査をしたい

振り返り 井上愛梨

- ・成長したこと
自分から話せるようになった。
自分から意見をいうのが緊張しなくなった。
- ・今後取り組みたいこと
買い物代行をもっとスムーズにできるようにしたい

・振り返り 吉本拓人

- ①成果発表を終えて...
 - ☞内容的には最高に良い内容だったが、まとめ方が悪く発表の効率が悪かったと強く感じた。
- ②今後...
 - ☞社会福祉協議会さんとさらに協力し、『買い物代行』というプロジェクトを発展させていきたいと考えている。
- ③成長したこと
 - ☞プレゼンテーションの際、困らずに発表することができた。

フィールドワークでお世話になった方々

- ・吉賀町社会福祉協議会（斎藤さん、石井さん、松本さん）
打ち合わせから準備までお世話になりました。
- ・七日市デイサービス（榎本さん）
Needs調査に協力してくださりありがとうございました。
- ・群馬県高崎市社会福祉協議会（平吹さん、田村さん）
買い物代行について教えていただきありがとうございました。
- ・大学生（二瓶さん、辛島さん）



1年間のアントレを通して

【生徒の感想（1年生）】

- ・ 人の話をよく聞き理解することはできるようになりました。はじめてのアントレで2年生の先輩とグループが一緒だったことから、先生、先輩の説明や教わったことを自分なりに理解し取り組めたと思ったからです。また、フィールドワーク先の柳下さんや何回も来てくださったアレックスさん、大学生さんの話をしっかり聞き、聞いたことをわかりやすくまとめることができました。この1年間のアントレを通して色々なことを学びました。私は多文化共生だったので、まずその意味を知り、世界と日本のこと、文化、食など沢山のことを知る事ができました。大人と関わるが多かったので礼儀や言葉遣いを教わりました。また自分だけの視点だけでなく他の視点からももっと深く考えることが大切だと学びました。
- ・ 今回高齢者を対象に活動してきました。そして来年度もこのような活動を継続させようと思います。でも、全く同じようなことはせずにターゲットを変えたりしてなにか変化はさせないと自分たちの達成感、学びに繋がらないのでなにか変化させて活動したいです。そして、今回自分が「すごいな」と感じた人の発表をこれから忘れず、参考にして、どんな発表形式でも頑張りたいです！
- ・ 学んだことは積極的に主体的に行動することの大切さです。何事も自分の意見を伝えたり自分から行動することの大切さを知れました。私は今回自分たちのアントレに積極的に参加できていなかったと感じるので積極的に動くことなどの大切さを知れてとても良い機会になったと思っています。伸ばせたと思う力は人前で発表する力です。人まで発表することは苦手意識がありました。が中間発表の場などたくさん人の前で話すことによって苦手意識を少しは克服できたのではないかと感じました。自分の苦手なことを改めて確認することができたのも良かったと思っています。
- ・ 1年間で学んだことは周りの人に対する感謝の気持ちです。まず私は自分のチームの先輩と引野先生にすごく感謝をしています。私はチームで1年生が1人で心細く、最初は言葉も全然発さずにはいましたが先輩や引野先生が私を思ってたくさん話しかけてくれたおかげで今の私がいると思ってるので本当に感謝しています。そして、地域の方にも感謝しています。今年1回だけイベントをさせてもらった時もたくさん協力やサポートをしてくださったり、話を聞いてくれたりなど地域の方がいるおかげで私達もイベントを開催させてもらえたのですごく感謝しています。

【生徒の感想（2年生）】

- ・学んだのは、苦手なことはチームのメンバーに任せるのも大事ということです。以前の自分はメンバーに頼ることがいけないとっていて、頼ったら「やってしまった」と後悔をしていました。しかし、この1年間アントレを通して頼るといのは全然悪いことではなく、むしろ進めているPJをより良いものにできると考えることができるようになりました。そして、伸ばせたと思う資質能力は広い視野です。「チームワーク」というもののあり方について自分の中で悩み、色々な視点からチームワークとは、と考えていた1年間でした。そして別の新しい「チームワーク」を自分の力で見つけることができました。もともと私は、広い視野を身につけたいと思いながらアントレを行っていたのでそれをこの1年間で身につけることができ嬉しく思っています。あと、全然話が変わるんですけど、2年時のアントレは楽しみながら取り組めたのもよかったと思っています！
- ・学んだことは、思いやることの大切さだ。社協の方と初めての打ち合わせをする時に、社協の方々には常に相手を思いやる力が根底にあった。ただ困っている人を助けるのだけではなく、困っている人を助け、その人が幸せな気持ちになってもらうにはどうしたらよいのかを考える必要があると思った。私は将来看護師になりたいと思っているので、困っている人を助けることはもちろん、私にしかできない方法で多くの人を幸せな気持ちにさせてあげられる人になりたいと思うようになった。伸ばせたと思う力はメタ認知力だ。プロジェクトを進めていくなかで常に自分をみつめ直すことができたからだ。
- ・一年間のアントレを振り返って学んだことは「なにか取り組むときは自信をもつこと」でした。この言葉は私が2年生のときにオンラインフィールドワークのときに大学生の紹介で観光に詳しい明星大学の田原教授から頂いた言葉です。この言葉は自分が地域の観光地に自信がなかった僕にはとても印象に残りました。このことはアントレだけではなくこれから社会に出ていってからも活用できると思います。この言葉を大事にしてこれから過ごしていきたいです。次に、伸ばせたと思う資質能力は「自分の意見を伝える」ことです。1年生のときは自分の意見を言えなかったですが、2年生からは自分のことは自分でしないとけなくなってしまうので、この能力が身についたと思います。
- ・相手を信じて待つことが口で言うのは簡単だけど、実際にするのは難しいし、大変だったと思いました。ですが、それが出来る先生になりたいし、相手の思いを引き出せるような人になりたいので、それが今回の活動を通して少し得意なことになったのが良かったと思いました。信頼してもらえると、頼ってもらえ、協力してもらえ、また一緒に活動したいと思って貰えると感じたので、協力してくれてる人を裏切らないような活動をしていきたいと思いました。
- ・私は1年間のアントレで2つのことを学びました。
1つ目は「やることを明確にして取り組む」ということです。今年のアントレは自分自身、何をしたいのかいまいち分からず始まりました。色々なことが出来そうなコミュニティを選んだものの、余計に何をしようか悩みました。その中で始まったアントレですが私

の班は主に2年生は私ひとりでその他は1年生2人でした。引っ張っていかないといけない立場でクヨクヨしていたことに申し訳なく感じます。こういう風に迷った時はせめて自分の興味のあることをすべきだと思いました。私は吉賀町の「働く世代」についてどれくらいの社会保障があるのか気になっていたのもそういった内容をすれば良かったと後悔しています。

2つ目はアントレは地域の課題解決をすることももちろんですが、なにより「持続可能かどうか」も考えなければいけないということです。といっても少子高齢化が進んでいるので限界はあると思います。しかし、みんなが考えたプロジェクトがこれから少しでも続いていかないと意味がないと思いました。せっかく地域課題に注目して取り組んでいるのに解消されるのは私たちが取り組んでいる期間だけになってしまいます。だから、後輩たちが引き継ぎたいと思えるようなプロジェクトを考えるべきだったと思いました。そして、私がアントレを通して伸ばせたと思う資質能力は、「困った時に助けを求める力」です。私の班はものづくりということで、木を使ったわけですから、本当に自分たちだけではプロジェクトを進めることが出来ませんでした。そんな中で困った時はすぐに地域の方に電話をしてどうしたらいいか尋ねました。地域の方は見返りを求めることなく私たちに無条件に力を貸してくれました。私は今まで人見知りということもあり、あまり地域の方と関わることがなかったので、そんな優しさに触れることがありませんでした。しかしこのプロジェクトを通して自分から「困ってます」ということで地域の方に限らずたくさんの方が私たちを助けて下さいました。これからも困った時は色々な人に助けを求めようと思います。(自分も助けられる人間になろうと思います。)

- ・私は多文化共生というジャンルで活動してきました。私たちの班は、主張できる人がいませんでした。最初は自分も空気を読んでしまいあまり意見を言い出すことができず全く活動できませんでした。最終的に皆それぞれの意見を出し合い議論して活動の見通しを立てることができましたが、やはり積極的に行動することが大切だと学びました。そしてその中で何ができて何ができないのかというような感じで物事を考えることによって広い視野で考えることを伸ばせたと思います。
- ・一年間の活動を通じて学んだことは、いくらでも目標を変えてもいいということです。僕たちの班は最初に掲げていた目標をオンラインフィールドワークで貰ったアドバイスを踏まえて本当のニーズを調べて新たな目標を作りました。伸ばせたと思う資質能力は、アントレを自分事として捉えて考えるということです。

2022 吉賀高校アントレ全体講評

青山学院大学 教育人間科学部 樋田 大二郎

予想していたことでしたが、アントレ発表会では、やはり目を見張ってしまいました。

2021年9月上旬に高校生と大学生が紹介動画を交換・視聴し、9月22日には早速大学生と高校生がオンライン交流。このときの吉高生は声が小さかったり、目が泳いだりしていました。秋の大学生の吉賀町訪問は直前に中止。代わりに、10月29日と11月1日にオンラインで交流。この後、高校生は自分たちで研究・実践を進め、問題意識も明確化。大学生は中止になった吉高生の東京フィールドワークに代わるオンラインフィールドワークの訪問先探しの開始。高校生への伴走という難しい課題に挑戦しました。12月1日には再度オンライン交流し、12月8日に、いよいよフィールドワークを実施。高校生と大学生と一緒に様々なフィールド先を訪問しました。高校生は自分たちの企画をプレゼンして専門家と意見交換。高校生がしっかりと準備し堂々とプレゼンする姿が印象的でした。そして、12月15日中間発表会、翌2022年2月10日にアントレ発表会。

振り返ると交流開始当初、吉高生の取り組みはありふれて見えました。上述のように自信がなさそうでした。しかし、吉高生は成長しました。吉賀町内の訪問先や高校の先生方と生身のやりとりがあり、町の課題を知ったり、町で熱く生きている人を知ったり、町の人に支えられていることを知ったりしました。そのことが自分たちを積極的にしたとアントレ発表会の中で語られていました。

私が目を見張ったのは、自分自身を問い自分の強みを生かそうとしたり、失敗を次に生かした(い)という発表が複数あったことです。複数あったと言うことは吉高生同士で刺激し合っていることを示唆します。先人たちの経験では起業や地域への貢献は多かれ少なかれ失敗体験が必要です。今は、下を向いている吉高生がいるかもしれません。でも何もしなかった人は失敗すらできないし、後悔したり下を向いたりもできない。吉高生や吉高生と協働した住民はアントレの失敗や成功を通して確実にたくましくなっています。ぜひ、次のステージへと目を向けて欲しい。

最後に一言、大学生は今年の吉高生から貰った学びを来年の吉高生に倍返しします。



大正大学 地域創生学部 浦崎 太郎

吉賀高校のアントレ発表会は3年続けて拝見している。今年も昨年までと同様、六日市体育館へ行って全員に立ち会い、空気を感じるのを楽しみにしていた。しかし、時節柄オンライン化され、代表9名の発表にしか立ち会えなかったとはいえ、今年もまた実践が深まっているのを画面越しに実感した。

吉賀高校のアントレは、これまでも「地域に溶け込んでいる」点で別格だったが、今回は「地域を～する」意識に「自分はどう生きるのか」「自分は社会にどう関わっていくのか」意識が加わり、目つき・顔つき・声の力など、これまで以上に力強さを感じた。そして、ど

の発表からも「自分らしさを発揮して」地域で新たな価値を生み出す姿勢、活動を通してこそその成長がハッキリ見てとれた。

今さら言及するまでもなく、「総合的な学習の時間」に地域課題を発見・解決する学習を先駆的に導入し、成熟を果たしてきた点で、島根県の右に出る県はない。また、それは「課題の発見・解決能力」が強調された旧課程と整合的でもあった。しかし半面、自分軸に対して地域軸が強調されすぎるあまり、探究と進路が生徒一人ひとりの中でつながりにくい傾向も一部に見受けられた。結果「2年で探究を引退し、3年では進路実現に向けて動く」という流れになりやすかったほか、探究の成果を進路に生かす幅も広くはなかった。また、自分軸を強調する新課程への移行が難しくなる面もあった。

吉賀高校は特に最近1年間、こうした課題に対して、新課程の導入や展開をしっかりと見据え、これまでに築かれてきた分厚い基盤を尊重・継承しつつ、生徒一人ひとりの自分軸を織り込んでいく挑戦を先駆的に続けてこられた。その一つが、3年になってから2年まで歩みをふりかえり、自分の成長を確かめ、将来につなげる、という流れへの軌道修正だ。

私はそれまでも、2年で探究を終える学校と、3年まで続ける学校で、生徒が卒業するまでの成長度に相当の差があることを感じていた。しかし、同一の生徒が2年生から3年生にかけて成長していく様子を見たことはなかった。それを初めて目の当たりにしたのが、昨年7月20日の吉賀高校、3年の最終発表会だった。この学年は1年生の頃から見えており、2年2月の発表でも成長を十分に感じていたが、それから約5ヶ月間の変化には目を見張るものがあった。それは私に「世の中と向きあい、自分自身と向きあった者は、これほどまで成長するものなのか」という驚きを与えてくれた。

それに関連していたのであろうと確信できるのが、1・2年生の成長だ。全国的にみれば、島根県の高校がコロナ禍で受けた制約は少ない方だったとはいえ、例年に比べれば、現場に出かけ、リアルに人と関わる機会は著しく少なかったはず。それは、挑戦や成長の機会が減少したことを意味し、どこまで1・2年生に影響が表れるのか心配していた。しかし、代表者9名の発表を見て、心配は吹き飛んだ。

そして、限られた機会の中でも1・2年生が想像以上に成長を遂げることができたのは、7月の最終発表会で3年生が1・2年生に対して直に語った「自分らしさを地域に生かした経験」「活動を通しての成長」が効いているからではないか、と思った。換言すれば、「1・2年生にとって最終発表会は、先輩から探究する意味を深く感じとり、制約や困難を克服しようという意志が芽生える機会となったのではないか」という見解を持っている次第である。

以上、コロナ禍が2年も続く厳しい局面にあっても進化を続けるアントレ、成長を遂げる生徒の皆さんには、眩しささえ覚える。それが実現したのは、先生方と地域の皆さんとの強い絆があったればこそ。敬意を表せずにはおれない。それをふまえて、アントレの次なる目標を提示させていただきたい。それは、教科学習とのさらなる有機化だ。

例えば「多文化共生」というテーマを持った生徒ならば、すべての授業で「多文化共生プロジェクトに活かせることはないか？」というアンテナを立てて学ぶ。そして、様々な科目で掴み取ったことを組み合わせるプロジェクトに活かす。先生方も、各生徒のテーマや挑戦と科目の内容とがつながる素材を導入できる余地を探る。こうすることで、各生徒が自身のテーマに応じて教科横断的な学びを深めることができる。年度始めに「年度末の発表会では、自分のプロジェクトに、どの教科で身につけたどんな力を、プロジェクトのどこにどう

活かしたか？を語ってもらう」と告知しておけば、一層効果的だろう。

また、各生徒が残した記録から、各教科担任が自身の科目に関連する部分だけを抽出していけば、意義深い形で観点別評価を実施することができる。いや、そもそも観点別評価の前提は「諸科目で学んだことを実社会や実生活で活かす活動の存在」であり、それを既に十二分なレベルで実装できている吉賀高校だからこそ挑みうる世界といえる。「考えるための技法」等とも絡めつつ、ぜひ実践をお願いしたい。

来年どんな姿に出会えるのか、今から楽しみでならない。再びリアルに拝見できる日が来ることを期待しつつ、私からのコメントとさせていただきます。



法政大学 キャリアデザイン学部 寺崎里水

今年度は、選ばれた人たちの発表だけを聞いたので、全員の発表を見ることができなかったのがとても残念です。その限られた発表を見た限りの今年度の講評として、生徒たちの成長と、活動の内実の2点から見ていきます。

○生徒たちの成長

選ばれた人たちの発表については、自分（たち）の感じたことを伝えようとする意欲が高まっていることを感じました。また、多くの人と関わるなかで、前よりも人前で話せるようになったとか、自分の意見を言えるようになったなどの感想を聞いて嬉しく思いました。

そういう評価基準になっているし、また、発表の形がそのように誘導しているのかもしれませんが、生徒の活動に対する評価が自分自身の感覚に向かいがちであることが気になりました。「～ができるようになってよかった」「自信がついた」という成長は、その先で、地域社会のなかで暮らす自分自身の役割の認識や、社会のなかに居場所をつくっていく力につながっていてほしいです。具体的な知識やスキルの習得、社会的ネットワークの拡大といった事柄も評価軸に入れて、活動を評価できるようになったらいいなと思います。

また、地域やもっと大きな社会のなかで活動するためには、自分にはこういうことが足りていないとわかった、という発見はなかったのでしょうか。私は何かの活動をしようとして、自分の知識不足やスキル不足に気づいてがっかりして、それから猛烈に勉強をしたくなることが頻繁にあります（したくなるだけです）。活動を続けていくうえでの自分の力不足に気づくことも、次の成長のためには大切なので、そういうくよくよした気持ちも大事にして、成果として報告してほしいと思います。

そういった、自分の感覚だけに目を向けないためにも、具体的な目標値を設定してみてもいかがでしょうかという提案をします。「自信がついた」「充実していた」という個人の内面的な充実度は、事前に活動目標として設定することが難しいです。プロジェクトアドベンチャーという教育プログラムでは、毎日の活動について、事前に個人の目標を数値にして発表し、チームのメンバーが互いにそれを達成できるようにフォローしあうことを奨励しています。フィールドワークで役場や企業にインタビューに行く前に、「今日は2つ質問をする」「一番に質問をする」など、個人が具体的な数値目標を設定して、それをチームのなかで共有しておきます。「メモを2ページとる」とかでも構いません。活動後、目標を達成できたかどうかを確認するところから振り返りを始められるのもいい点です。一つひとつは小

さな目標ですが、見える形で目標を設定し、達成する経験を積み重ねるのは意義があると思います。

○活動の内実

とても興味深い成果をあげている発表がいくつかありましたが、そのプロセスをみると、大切にしてほしいポイントがないがしろになっているように感じました。

ポイント一つ目は、課題発見が丁寧になされていないということです。昨年も今年も、「コロナでなんらかの活動ができていない」という課題設定がたくさんありました。ある意味では真実ですが、では、コロナ前はそれらの活動はとても充実していたのでしょうか。たとえば世代間の交流について、コロナ前は十分に世代間の交流があったのでしょうか。「コロナで～できない」というのは一番安易で手軽な理由ですが、そういうものを利用することで、地域が抱える問題の本当の姿が見えなくなっているように思いました。

同じことが、吉賀町の観光促進活動にも言えます。毎年、テーマとしてあがっていますが、吉賀町の誰にとって、観光が重要な課題なんでしょうか。知名度が低いことは、誰にとって、どうして問題なんでしょう。そういうことをきちんと考えないまま、乱暴に課題発見をしても、いい解決方法は出てきません。逆に、解決方法として高校生が思いつく程度のことは、99.9%、大人が先に考えています。残りの0.1%を見つけるためにも、もっと丁寧な課題発見をしてほしいです。

課題発見から解決策としてのプロジェクトの立案は、病院の診断と処方と同じです。正しい診断がなされないまま、処方だけがあるというのはおかしい状態です。体調がすぐれないとき、病院に行くと診断にとっても時間をかけます。様々な検査を繰り返しますし、患者もセカンドオピニオンなどの手段で複数の意見を聞いたりします。また、医師が処方した薬は薬剤師が専門家としてチェックしますし、治療法は複数の医師のカンファレンスで方針や手段を確認します。人ひとりの病気ですらそうなのですから、(地域)社会のなかにある不具合を発見し、それについて何かを提案するというのはとても大変なことです。病気はすべての人にとって同じように不具合ですが、社会のなかでの誰かにとっての不具合は、別の人にとってはメリットかもしれないからです。

そう考えると、もっと時間をかけて、丁寧に地域の人のお話を聞いたり、他の地域の情報を集めたりして、自分が見つけた不具合を説明する必要がありますし、対処法についても、不具合のどの部分にどういうふうに効きそうなのか、考える必要があります。社会学では、診断ができた時点で研究の7割は完成したようなものだと考えます。高校一年生の活動ではこの診断の部分にほとんどの時間をかけて、丁寧に町のことを知り、考えたらいいと思います。

二つ目の重要なポイントは、この診断過程で用いる方法についてです。とにかく話を聞きに行くことがフィールドワークとなっていますが、本来、話を聞きに行くこととアンケートをとること、何かを観察して実態を知ること、資料を検索することは、それぞれ別の目的に応じた活動です。調査方法の違いを理解し、適切に選択できることが探究型学習の学習課題でもあるはずなので、ぜひ、使い分けてほしいです。

ポイント三つ目は、協働活動の「協働」の意味があまり丁寧に考えられていないということです。とにかく話を聞きに行くということもそうですが、話を聞きに行くためには、必要最低限のことは事前に勉強しておかなければなりません。何も知らないのに聞きに来ました

というのは、相手を便利な辞書代わりにする行為です。とくに吉賀町のこれまでの取り組みや、過去に先輩たちがどんな活動をしてきたのかは、事前にある程度調べて共有していたほうがいいのではないのでしょうか。何も知らないまま来ても話をしてくれる地域の人たちは、優しいのではなくて、期待をしていないのではないのかもしれませんが。「もっと勉強して出直してこい!」と高校生を叱ってくれるほど、期待してくれたりいいですよ。

今回の発表のなかでは、とくにD班について、企業と一緒に活動できないと断られたら、次の企業に、また次の企業にと、どんどん候補企業を替えていたように発表を受けとめました。通常、一社に断られた場合、自分たちの持ち掛けた提案内容に問題があったと考え、それを修正する方向に向かうべきですが、そのプロセスはあったのでしょうか。商品開発には詳細なマーケティングリサーチやマネタイズの具体的なプランが必要ですが、それについての内容や修正のプロセスは発表では聞けませんでした。そういう内容の部分の失敗・挫折ではなく、打診をして断られるという失敗・挫折だけが注目されるのだとしたら、私は評価方法として間違っていると思います。

また、協働活動は互いにメリットがないと持続しませんが、D班の場合、高校生が提携先に提供できるものがなんなのか、ついにわからないままでした。キャリアデザイン学部では企業と協働して商品開発をする授業がありますが、発表を聞いた限りでは、この授業なら決して許されない状況のように思いました。高校生の分にあった活動をしろというわけではなくて、高校生の枠組みを大きく超えた活動をしようとする場合は、相応の勉強や努力が必要だということです。

ポイントの四つ目は、診断と処方という、処方が先走っていて、そのことが本人の充実感と満足以外に、どういう効果をもたらすのかが不明な活動があったということです。いくつか発表があったイベント実施は、対象者に一時的な楽しみを提供しますが、その効果の範囲や持続期間はうんと限られています。とにかくなにか活動をしたり作ったりしたらいいというのは、バブル期の箱もの行政とよく似ていますし、昨今のSDGsの流れに反しています。

以上の四つのポイントは、高校生自身が時間をかけて丁寧な診断をしたうえでの課題発見が必要、ということにつながっています。現在は一年のうちになにかのアクションをすることがゴールになっていますが、一つひとつのポイントを丁寧にこなしていくためにも、高校一年生は地域を知り、自ら課題を発見する力を丁寧に養成することに時間をかけて、アクションは2年生以降でもいいように思いました。

高校生の活動をみながら、途中経過やオンラインフィールドワークのときにはあんなに不安でいっぱい、まとまっていなかったのに、こんなに一気に形になっていくのかと、発表を聞いていて驚きました。高校生の活動する力はもちろんですが、そのために先生方やコーディネーターの方々が毎日働きかけてこられたのだらうと、改めて吉賀高校の教育する力を実感しました（大学生も少しは貢献しているといいですが）。ふだん、会っている大学生にはこういうことはできるかな、できないとしたら何が足りないんだらう、などと反省もしました。上の文章は、そういう自分のことはいっさい棚にあげて、こういうことができたらもっと素晴らしくなるのに、という思いをまとめました。高校魅力化の流れとは別に、課題探究型学習やプロジェクトベースドラーニングなど、大学での学びにつながる高校での学びのあり方や、不確実性を増す社会のなかで必要とされる知のあり方、あるいはシティズン

シッポの涵養といった新しい教育の課題があります。それらの観点から見ても、吉賀高校の活動は意義のある活動だと考えますし、活動の端っこに関わるととても光栄で楽しいです。今後も期待しています。



青山学院大学 教育人間科学部 大木 由以

朝からの発表お疲れ様でした。一年を通して皆さんのアントレの取り組みを見させていただきました。ずっとオンラインでのかかわりでしたので、断片的ではあると思いますが、プロジェクトが発展していく様子、生徒の皆さんが変化していく様子を垣間見ることができました。私自身も、とても刺激を受けています。ありがとうございます。

発表会に参加をして、「これってすごく大事なことだよな」と感じたことがあります。

まず、皆さんが自分たちの暮らしている地域社会に目を向け、皆さんが自分たちの暮らしている地域社会で“どのようなことがおこっているか”、“どのような人たちがいて何をしているか”を知り、その実態を紋切り型の言葉ではなく、リアルな言葉で説明できるようになることです。今日の発表では、皆さんが暮らす地域社会のこと、そのなかで皆さんが考え、経験したことを、リアルな言葉によって聞くことが出来ました。

また、地域社会に目を向けることによって、皆さんがアントレの活動の中で考え・試みていることが、皆さんだけでなく、地域の様々な主体によっても同じように考えられ・実施されていることに気づくことです。発表の中には、「自分たちと同じように地域のことを考え、様々なことを試みている人がいることに気づいた」というコメントがありました。とても大事な気づきだと思いました。

そんな皆さんの様子を見ながら、“これから”についても思いを巡らせていました。皆さんは今、吉賀高校の“生徒”として様々なことに取り組んでいると思います。でも、皆さんは吉賀高校の“生徒”であると同時に、“地域の〇〇さん”でもありますよね。皆さんも、何かの機会に地域の〇〇さんとして、誰かのプロジェクトを支えることができます。アントレの活動を通して学んだことを、是非、他の誰か（それは生徒には限られません）のプロジェクト（プロジェクトという呼び方はしていないかもしれませんが）の発展に生かして欲しいと思います。

今はまだ、自分たちのプロジェクトを成功させることが最優先かもしれません。それはもちろん大事なことです。ただ、プロジェクトを成功させて終わりにしてしまうのではなく、活動を通して学んだ成果を、自分のためだけでなく、他の誰かに届けるかたちで応用して考えていって欲しいです。そんなことを心がけていけると今年度の活動がさらに意味のあるものになるんだろうと思っています。最後に、今日は代表者の発表でした。発表がなかったグループのプロジェクトについても、どうなったかな？と、とても気になっています。まだ道半ばのプロジェクトもありますね。これからどのようにになっていくのか、とても楽しみです。



みなさん発表お疲れ様でした！今年はコロナで大変だったと思います。しかし、人との交流が制限されている中で、地域の人との交流の大事さを発表で示されたと思います。一緒に活動した大学生にとっても、地域や社会の重要さを普段とは違う形で感じる事が出来ました。実際に会うことが出来ませんでした。オンラインで密な交流ができたと思います。

今年の活動では（でも）、すごいところをたくさん見させてもらいました。

まず、高校生の皆さんが、スマホやクロームブックを使って研究内容を蓄積していく姿に感動しました。得られた写真や動画といったデータを議論する中で、リアルタイムに資料に反映させながら発表資料を作っていく様子に圧倒されました。オンラインでの活動でしたが、普段以上にコミュニケーションができたと思います。オンラインフィールドワークによる探究活動の可能性を切り開いたと思います。

そして、今年は、試行錯誤している姿が印象に残りました。自分たちの活動が、本当に地域社会にとって必要なことなのかを振り返る時間が多かったと思います。押しつけになっていたり、独りよがりになったりしないかと立ち止まる機会が多かったと思います。自分達が楽しいと思うことと、地域の人を楽しいと思うことが一致しているのか立ち止まって考えている様子が見られました。自分たちの弱みと強みをよく考えて、活動をアップデートしよう努力しているのがよく分かりました。

また、今年は例年よりも比較の視点を採り入れようとしているように見えました。例年、吉賀町と東京の2地点での活動でした。今年は、東京だけでなく、全国の地域での取材を重ねていました。自分の暮らす地域をより相対化して、地域の価値を見直されていたと思います。なぜよその町では出来るのが吉賀町では出来ないのか、反対に吉賀町では出来るのになぜよその町では出来ないのかといったことを考える内容が見られました。とても貴重な視点だと思います。ぜひ深めて行って欲しいです。

最後に、活動の継続性を考えていた点を感じられました。例年と違い、フィールドワーク先と継続的な関係を持たれている点がすごいなと感じました。フィールドワーク先とオンラインでつながり続け、吉賀町とよその町との交流による相乗効果を生み出そうとしている点が新しいと感じました。今回作った関係をぜひこれからも育てて欲しいと感じました。きっとこれまでにない価値を作れると思います。

これからみなさんの活動はさらに深化していくと思います。コロナの流行のような状況は徐々に収まると思いますが、ぜひ今回の活動で学んだことを花開かせて行って欲しいと感じました。これからもみなさんと一緒にさらにおもしろいことを作っていきましょう。がんばりましょう！

高大協働研究（青山学院大学・法政大学）より ～大学生コメント～

最も印象に残っているのは、やはり吉賀高校のアントレプレナーシップ教育への参加です。私の通っていた高校では、全員が大学へ進学することが当たり前で、キャリア教育として行われていたことは、遠足での大学訪問くらいでした。そのため、吉賀高校では、アントレにたくさんの授業時間を確保し、高校生が主体として活動を進めていること、とても具体的な事に驚きました。地域の課題について考えることがあっても、そこにある需要と、自分がやりたいことの二つを組み合わせ、プロジェクト化し、社会との自分らしい関わり方を探っていく、という活動は、高校生には難易度が高いのではないかと感じる場面も多い一方で、そのような経験を高校生でできることに羨ましさも感じました。私の班の高校生は、放置されている柿によって鳥獣被害が起こっている事に注目し、柿と地域の特産品を組み合わせ商品化し、それを売って得た利益で鳥獣被害を防げるように電気柵を設置したい、と考えていました。そして、商品化のために、色々なアイデアを出したり、より良い方法を考えたり、試作を重ねアンケートをとったりして、日々のLINEでも、どんどん新しいものを見せてくれて感心していました。大学生でありながら、吉賀高校生がしているような活動の経験がなく、自分はどの役に立つことができるのか、伴走者とはどんな目線でいたらいいいのかというのが難しかったです。しかし、オンライン企業訪問に際して、今の段階から次へ進むには、どんな人に話を聞くと良さそうか、どんなことを伺いたいのか、何から優先的に質問すると良さそうかなどを高校生と一緒に考え、実際に企業の方と高校生をつなぐ役割を果たせた時には、直接は会ってなくても最初より一体感が生まれ、一緒に活動している実感と、自分が参加した意味があったかなと思うことができました。来年度には実際に会って、もっと近くで一緒に考えたり挑戦したり失敗したりしたいです。高校生の行動力やアイデアに感心するばかりでしたが、ここで受けた刺激を大切にして、自分の将来についても、需要とやりたいことから職業を考えるようにしたいと思いました。アントレの授業がある吉賀高校はとても魅力的な教育を行っていると感じます。

わたしがこのゼミで印象に残っているのは、吉賀高校の高校生と外部の方の協力を得て行った、オンライン交流会です。わたしのイメージした活動は、コロナが収まっていれば、吉賀町に訪問し、レクなどを通して高校生と仲良くなったうえで、ともにアントレの活動について考え、さらにそれを生かした情報提供の場を作ることができるというものでした。ですが、吉賀町に行くことも高校生に来てもらうことも難しくなり、活動についての不安がありました。高校生にいつも情報をもらいまとめるだけで、机上の空論を押し付けているのではないかと、本当に企画の内容や、意図、現状を私はわかっているのかと考えることが多くありました。私はその不安を少しでも解消するため、高校生とのコミュニケーションの機会を大切にするようにしました。オンライン交流の際にただ話を聞くだけでなく、踏み込んだ意見を言い、それに対して問うてみたり、分からなかったり疑問に思うことについて逆に質問はないかなどを聞く機会を作りました。またオープンチャットを活用し、日常会話を交え、活動についての相談や意見を言う機会や、気軽に話す機会を作りました。そうすることでオンラインの壁を少しでも乗り越えられるようにしようと思いました。オンラインの交流の際の報告だけに使っていたオープンチャットも、頻度を増やしたり、返答方法を絵文字にしたりすることで、反応が返ってくるようになりました。ですが私の考え通りには中々いかず、日

常の話や活動の話は全員から聞くことはできませんでした。距離を縮めることは、少しできたのかなと思いました。

私が印象に残っていることは吉賀高校の高校生が私の想像以上に、主体的に行動する力があつたことです。私たちの班は柿を使った食べ物を考えることをまずは行つたのですが、私達が何もアドバイスしなくても「今柿の佃煮を試作しています」など、自分たちで考えて行動していました。企業の営業部長のインタビューから、パッケージに地域の特産品を入れると良いということを知つた時には、休憩時間中に彼岸花や棚田が有名ということ調べて教えてくれました。すぐに主体性を持って行動に移せる高校生を見てとても感心し、印象に残っています。

探究的な学びを実際自分の目で体験できたことが一番大きいです。私は中学高校時代に、自分で課題を見つけ、解決するために活動する探究的な学びをしたことがありませんでした。教育学科にいと何度も「生きる力の育成」「主体的・対話的で深い学び」という言葉を耳にしますし、私自身もそのような学びが生徒の力を伸ばすのだらうなということは理解しています。しかし実際どのような活動を生徒にさせるのか、教師はどんな手助けをすればよいのか具体的なイメージが湧きませんでした。吉賀高校生との交流を通して、まずは1年生の時に地域の人にインタビューをするなどして課題を各自見つけ、その後解決策を考え、専門家や企業などにインタビューなどをしながら、最後は発表して他の人の意見などを聞くという探究プロセスの流れを知ることができました。これから教育実習など教育の現場に実際携わることが多くなるので、この探究プロセスを生かしていけたら良いなと感じています。

吉賀高校との交流からの学びは、自らが企画したフィールドワークに高校生が嬉しそうに取り組んでいるところをみて、企画した側も嬉しくなるということを知ることができたことです。これはきれいごとではなく、本当に自分の中で高揚感のようなものが沸き上がったということを伝えたいです。私は今までの大学の授業では基本的に受け身的に情報を受け取つて、それをいかにインプットできているかということばかりに重きを置いてきましたが、実際に「誰かのために」学びの場を作り、それが喜んでもらえたということにはとてもやりがいを感じました。このような経験から、もし私が教員採用試験に合格して教師になることができたならば、学習者が笑顔で生き生きとした顔になるような、受動的ではなく能動的な学習の機会を児童に作つてあげたいと今までより強く思うようになりました。これは、ゼミに入る前から思つていたことで、このゼミ活動によってこの思いがより深まったことがとても嬉しいです。

吉賀高校は自然の豊かさに恵まれていて小規模な学校、こちらは都会で大規模な大学という、そもそもお互いが育つてきた場所や環境が異なっており、そういう人たちで交流すること自体に、自分の固定観念などが払拭されるという意義があると考えられる。

また、教員になるにあたり、年下の世代と関わることのできる機会は非常にありがたかつた。年下と言っても、高校生も一人の“大人”として扱う、ないし関わるべきだと思つた。これは教員になつても（中学校志望だが）、社会の一員としても該当することだと感じる。吉賀高校生との交流では、この子は何を言いたいのか、どうしたいのかなど一つ一つのことに対して真摯に向き合うことの大切さを学ぶことができた。中学校教員を目指すにあつてひと足早く、同じプロジェクトに向かうという特異なスタイルで関わることができ、一緒に同じ方向を目指すことの大切さや心地良さも学ぶことができた。



スマートフォンで店内の商品を撮影する生徒
—吉賀町七日市、サンマート六日市



タブレット端末で買い物の様子を
眺める利用者—吉賀町六日市

スマートフォンで撮影した商品の写真や動画を、タブレット端末で閲覧し、購入の可否を確認する。問い合わせは町民課。電話 0856(7)70136

高齢者が買い物が難しくなっている中、買い物に困る住民を助けようとして、吉賀町七日市の生徒が町会委託事業として、高齢者向けにスマートフォンで商品の写真を撮影し、自宅に届く利用者にリアルタイムで見て品定めしてもらいながら、買い物してあげる。総合学習の一環として7月まで取り組む。高齢化が進む町で、若者の心配りが住民や関係者を喜ばせる。

スマホで商品撮影

買い物に困る人が多いと、2人が代金を預かり、2週間ほど前、買い物2回した2年生の吉賀高生2人、市を待って店に移動。2人が持っているスマートフォンで商品の写真を撮影し、自宅に届く利用者にリアルタイムで見て品定めしてもらいながら、買い物してあげる。総合学習の一環として7月まで取り組む。高齢化が進む町で、若者の心配りが住民や関係者を喜ばせる。

吉賀高生 買い物物お助け

利用者リモートで品定め

(山陰中央新報社：令和4年2月10日付)

吉賀高生が給食メニュー
ペルー料理企画、調理も

地域活動の成果を報告する生徒—吉賀町七日市 吉賀高校

吉賀町七日市の吉賀高校生徒が2021年度に取り組んだ地域活動の成果報告。地域の課題、活性化策を発表し、同校であった。

1年生の小田裕一朗さん(16)のグループは、外国人比率が高い町内で異文化に触れる機会を増やそうと、小中学校の給食で外国料理の提供を企画。食材は自分たちで調達し、町在住のペルー人と一緒に野菜と牛肉を使ったペルーの伝統料理「ロモ・サルタード」と「ソバ・ミヌータ」を作った。

今月1日の町内8校の給食で食べてもらい、おいしかったとの声が多数寄せられたといい、小田さんは「優しく接してくれたペルーの方と取り組む中で、外国人も住みやすい環境をつくる大切さを学んだ」と話した。このほか、鳥獣被害を減らすと耕作放棄地にある柿の実を活用したジャムやケーキ作り、地元の廃材を使ったペンチ制作などの発表があった。

報告会は、地域活動を通して社会を創造する力を養おうと同校が取り組む「アントレプレナーシップ教育」の一環で、吉賀高と青山学院、法政、大正の3大校が共同で行っている。

(石倉俊直)

紙面編集・安部 享雄

(山陰中央新報社：令和4年2月11日付)